

高知県実践的防災教育 推進事業発表会

平成24年12月5日

内容・時程

13:30	14:00	14:45	15:00	15:40	15:55	16:10	16:50	17:00
受付	公開授業	休憩	学年別 分科会	移動	6年生に よる アトラク ション	全体会	閉会	

公開授業・分科会

分科会	学 級	授業会場	教科・領域	単元・題材名等	授業者	分科会会場	助言者名	司会・記録
1年	1年1組	1年1組 教室	生活科	『だいすき・すさき』 ～地震から身を守ろう～	間瀬 多恵 竹田わか乃	1年2組 教室	五十嵐 起世 (中土佐町立 久礼小学校 教頭)	司会:竹田 わか乃 記録:岡崎 千枝子
	1年2組	1年2組 教室	生活科	『だいすき・すさき』 ～地震から身を守ろう～	竹田 美保			
2年	2年1組	多目的 ホール	生活科	レッツゴー! ぼうさい町たんけん	佃 晶子	2年1組 教室	岡 敦子 (高知市立 旭小学校 校長)	司会:竹崎 佐和 (教育研究所) 記録:三崎 明子
	2年2組				中道 美保			
3年	3年	3年教室	特別活動	その時、あなたは	谷岡 園巳 五十嵐彰英	3年教室	岡田 直子 (高知県教育委員会 学校安全対策課 課長補佐)	司会:田中 由利子 記録:小松 安香
4年	4年1組	4年1組 教室	総合的な 学習の時間	地区別の避難場所を考えよう	吉本 幸司	4年1組 教室	橋田 麻紀 (高知県教育委員会 学校安全対策課 指導主事)	司会:國澤 伸二 (須崎中学校) 記録:吉村 淳子
	4年2組	4年2組 教室	総合的な 学習の時間	地区別の避難場所を考えよう	渡邊 瑞子			
5年	5年1組	5年1組 教室	道德	尊い命 「稲むらの火」	山本 由香 藤田 真千	5年1組 教室	長岡 誠司 (高知県教育委員会 学校安全対策課 チーフ)	司会:武田 和志 記録:藤田 真千
	5年2組	5年2組 教室	道德	尊い命 「稲むらの火」	曾根 豊弘 武田 和志			
6年	6年1組	体育館	総合的な 学習の時間	ぼくらは防災メッセンジャー	西村 大典	6年2組 教室	上岡 法政 (高知県教育委員会 学校安全対策課 指導主事)	司会:深瀬 泰宏 (教育研究所) 記録:渡邊 文枝
	6年2組				野本 真紀			

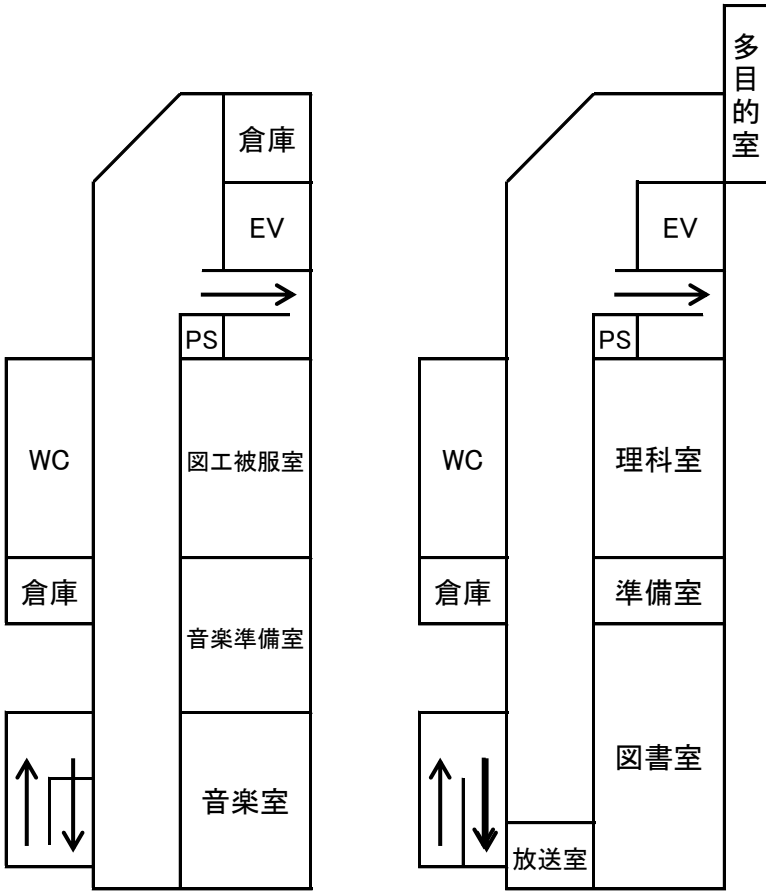


須崎市立須崎小学校



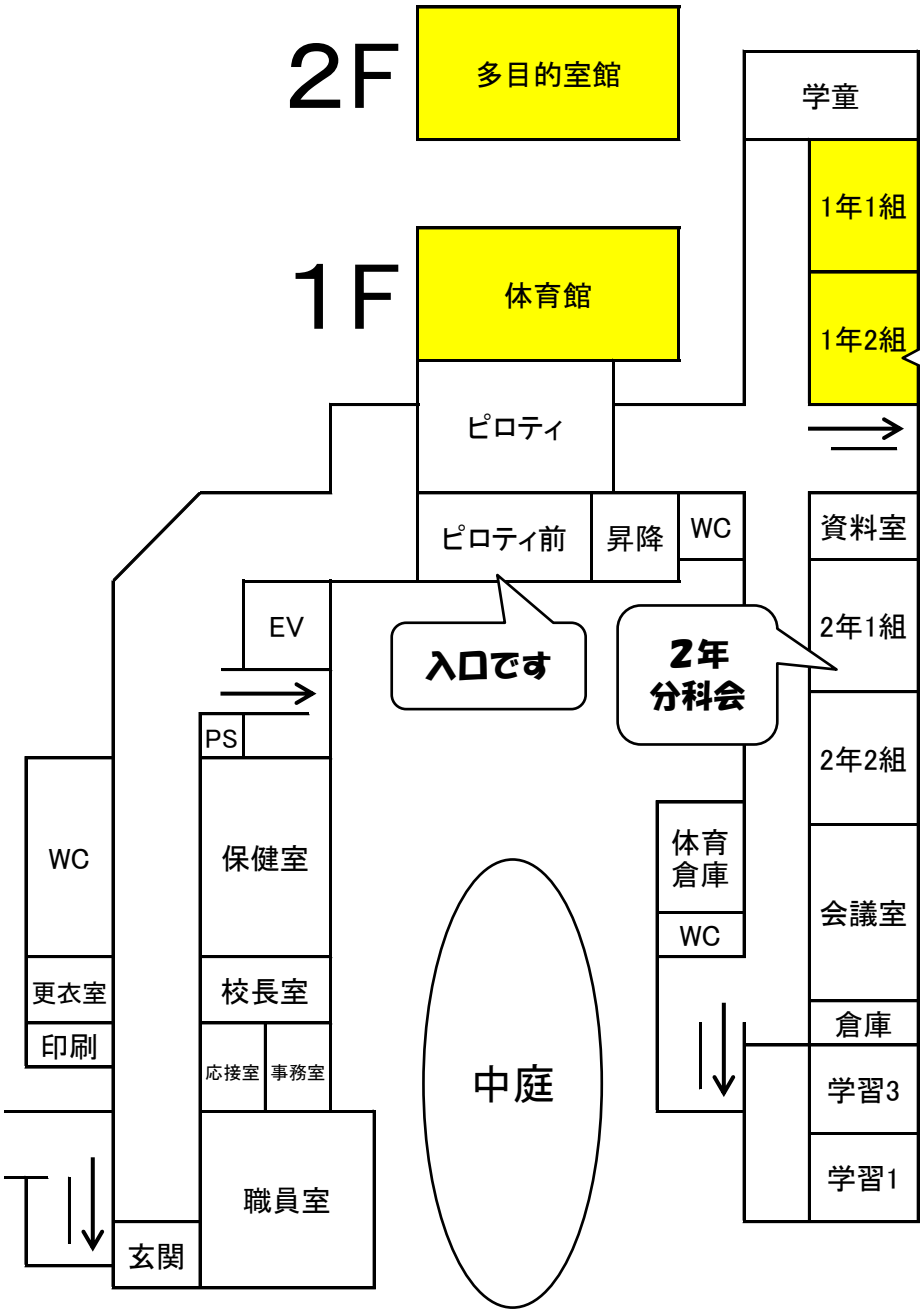
校舎配置図

新管理棟
特別教室棟



3F

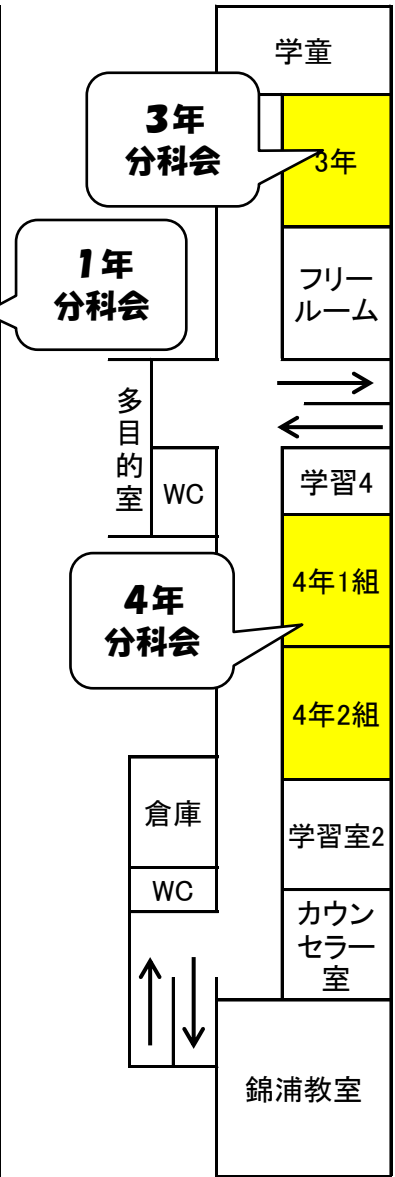
2F



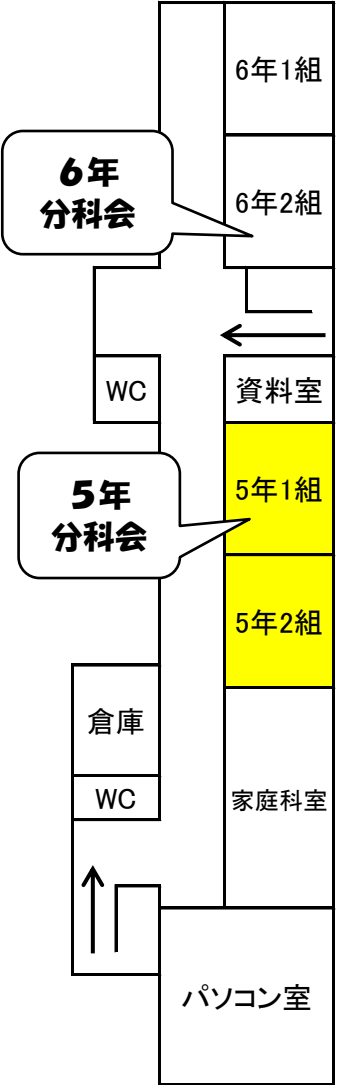
1F

1F

南 舎



2F



3F

運動場

プール

須崎小学校 防災教育（地震・津波）全体計画

学校教育目標 ・仲間とともに課題を解決する子どもを育てる。 ・進んで学習に取り組み、確かな学力を身につける子どもを育てる。					
児童 南海地震を知っている児童は多いが、津波が起こることを知っている児童は32%と少ない。学校外での地震時、避難する場所を知っている児童は67%、一人で避難できる児童は59%であり、家族と連絡のとり方を決めている児童は17%と少ない。	防災教育の目標 ・災害時に自分で判断し、最善の行動がとれる子どもたちの育成 ・助け合いやボランティア精神など、「共生」の心をはぐくみ、人間としての在り方生き方を考える。			家庭 PTA を中心に防災に対する意識と対策への要望は高い。	地域 防災に対する意識はあるが、防災訓練への参加など具体的な取り組みへの参加率は十分とはいえない。
	防災教育におけるめざす児童像 ・自分の命は自分で守れる子ども ・災害発生時には集団や地域の安全に役立つことができる子ども ・防災についての基礎基本的事項を理解できる子ども				
	推進の視点				
【A】防災リテラシーを身につける ・災害発生時の身を守る方法 ・災害発生時に自分で考え、適切に判断・行動できる実践力 ・災害を乗り越えるために他者と助けあう共生力 【生活科・社会・保健・特別活動・総合的な学習の時間・学校行事】		【B】人間としての生き方に迫る ・命を尊重する心の育成 ・他者を思いやる心の育成 ・ボランティア活動に積極的に参加しようとする心の育成 【生活科・国語・社会・保健・道徳・特別活動・総合的な学習の時間】		【C】科学的理解を深める ・自然災害の種類と発生メカニズムについての理解 ・地域の災害の歴史と対策についての理解 ・今後の防災体制の理解 【生活科・社会・理科・総合的な学習の時間・学校行事】	
防災教育の重点					
低学年 ・災害が発生したときに、災害に応じて、自ら適切な行動ができるようにする。		中学年 ・災害のときに起こる様々な危険について知り、自ら適切な行動ができるようにする。		高学年 ・災害が発生したときに、自ら適切な行動ができるようにするとともに、他の人々の安全にも気配りができるようにする。	
各学年の目標					
第1学年 ・通学路に関心をもち、災害時の避難の仕方を知り、安全な登下校ができるようにする。 ・地震や津波の怖さを知り、適切な避難の仕方を身につける。 ・災害時の対応について家族と話し合い、防災意識を高める。	第2学年 ・通学路に関心をもち、災害時の避難の仕方を知り、安全な登下校ができるようにする。 ・地震や津波による危険について理解し、適切な避難の仕方を身につける。 ・災害時の対応について家族と話し合い、防災意識を高める。	第3学年 ・地域の地形等を理解し、災害時の避難の仕方を知り、安全な行動ができるようにする。 ・地震や津波が起こるわけを知り、それに伴う危険について考え、適切な避難の仕方を身につける。 ・防災対策の準備について考え、防災意識を高める。	第4学年 ・地域社会における災害から命を守る工夫について知り、安全な行動の仕方ができるようにする。 ・南海地震について知り、現在の避難の仕方に生かす。 ・南海地震の危険性について考えることで、防災意識を高める。	第5学年 ・地震の震度やマグニチュード、津波の速度や破壊力等について知り、安全な行動の仕方を学ぶ。 ・地震速報や津波予報システムを知り、年少者を助けながら避難する仕方を身につける。 ・過去の南海地震の体験談を聞くことで、防災意識を高める。	第6学年 ・地震の震度やマグニチュード、津波の速度や破壊力等についてより詳しく調べ、安全な行動の仕方の理解を深める。 ・地震速報や津波予報システムを理解し、年少者を助けながら避難する仕方を身につける。 ・過去の南海地震の体験談や工夫を調べ、防災意識を高める。

防災教育年間計画
各学年防災教育指導計画

平成24年度 須崎小学校防災教育年間計画

学年	教科等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	教科		生:学校の近くの校区探検をして地域や通学路について知る	生:地震や津波のこわさや危険を知る				生:「マイマップ」「すさきマップ」を作成する		生:学校・登下校・家にいる時に地震が起きた時の避難方法を考える			
	道徳						いのちがあってよかった				災害や地震から身を守る		
	特別活動								体験者の話を聞く。	災害時への備えとして、家族と地震や津波のことを話し合う			
2年	教科		生:地域探検に行こう				生:起震車体験 生:地図を見てみよう 生:通学路を歩いてみよう	生:町たんけんに行こう	生:発見したことを紹介しよう		生:マイひなんマップを作ろう		
	道徳				たんじょう日							ぼく	
	特別活動			地震や津波のこわさや危険を知り、学校にいたときの避難の仕方を知る			津波からの逃げ方を知る						
3年	教科			社:須崎の地形について知る									
	道徳						健ちゃんをたすけろ				いただいたいのち		
	特別活動						津波からの逃げ方を知る	避難場所までの時間を知る	避難方法を考える				
	総合的な学習の時間		学校周辺の校区探検をし、地域や通学路について知る								避難マップ作り		
4年	教科		社:安全なくらしと町づくり						社:災害からくらしを守る		社:避難マイマップを作成する		
	道徳				わたしの見つけた小さな幸せ							走れ江ノ電光の中へ	
	特別活動						地震や津波のこわさや危険を知り、学校にいたときの避難の仕方を知る	津波からの逃げ方を知る					
	総合的な学習の時間									地区別の避難場所を考える			
5年	教科						社:くらしを支える情		保:けがの防止				
	道徳			命がないとはじまらない				コースチャぼうやを救え		稲むらの火			
	特別活動									あなたならどうしますか？			
	総合的な学習の時間		南海地震にそなえちよき						地区別の避難場所を考える		防災マイマップを作成する		
6年	教科			理:地震のメカニズムを知る			社:気象庁のアラートの仕組みを知る	社:地震津波の歴史を知る 保:ライフライン・共同生活について知る					
	道徳	命の重さはみな同じ									お母さんへの手紙		
	特別活動												
	総合的な学習の時間						気象庁のアラートの仕組みを知る	津波に対する備えを学習する	学習内容をテーマ別に調べ、ポスターセッションをする		避難マップ・避難経路の案内板作り	学習のまとめと人権集会での発表	
学校行事			津波高潮対策・防災学習(6年修学旅行)	避難訓練(授業中)			避難訓練(休み時間)		家族と一緒に避難訓練		避難訓練(保育園との合同)		
地域									防災キャンプ				

防災教育 第1学年指導計画

1. 目標

- ・通学路に関心を持ち、災害時の避難の仕方を知り、安全な登下校ができるようにする。
- ・地震や津波の怖さを知り、適切な避難の仕方を身につける。
- ・災害時の対応について家族と話し合い、防災意識を高める。

月	教科等	学習内容	時数	学習活動の概要	推進の視点
5月	生活	学校の近くの校区探検をして地域や通学路について知る	5	①学校や近くの通学路について、危険な場所を知る。	A
6月	生活	地震や津波のこわさや危険を知る	2	①「南海地震にそなえちよき」で地震や津波のこわさを知る。 ②授業中の避難の仕方を知る。	A C
6月	学校行事	避難訓練	1	①放送を聞いて、教師の指示のもと避難をする。(授業中) ②避難訓練についてふりかえる。	A
9月	道徳	いのちがあってよかった	1	①教材を読んで、お父さんの言葉を聞いて、わたしはどんなことを考えたか話し合う。 ②心配してくれたみんなに、わたしはどんな気持ちを持ったのかを考え、命の大切さについて話し合う。	B
9月	学校行事	避難訓練	1	①緊急地震速報を聞いて、自分で考えて避難をする。(休み時間) ②避難訓練についてふりかえる。	A
10月 ～ 3月	生活	「マイマップ」「すさきマップ」を作成する	6	①家族と通学路について確認する。 ②避難場所を確認する。 ③避難経路を知る。 ④避難マップを作る。 ⑤実際に避難する。	A
11月	学校行事	家族と一緒に避難訓練	1	①自宅から指定避難場所に家族と一緒に避難する。 ②避難訓練についてふりかえる。	A
11月	特別活動	体験者の話を聞く	1	①体験したことを聞き、地震や津波のおそろしさを知る。 ②感想を書く。	B
12月	生活	学校・登下校・家にいる時に地震が起きた時の避難方法を考える。	4	①通学路で、地震が起きた際の危険なこと考える。 ②安全に避難するために必要なことを考える。	A
12月	特別活動	災害時への備えとして、家族と地震や津波のことを話し合う	1	①通学路で、地震が起きた時にはどうするのかについて家族と話し合ったことを発表する。 ②避難経路の必要性を知る。	A
1月	学校行事	避難訓練	1	①保育園の園児と一緒に学校の裏山に避難訓練を行う。 ②避難訓練についてふりかえる。	A
1月	道徳	災害や地震から身を守る	2	①災害や地震の絵本や副読本を読む。 ②災害や地震から身を守る方法を知る。 ③感想を書く。	A B

総時間 21 時間

防災教育 第2学年指導計画

1. 目標

- ・通学路に関心をもち、災害時の避難の仕方を知り、安全な登下校ができるようにする。
- ・地震や津波による危険について理解し、適切な避難の仕方を身につける。
- ・災害時の対応について家族と話し合い、防災意識を高める。

月	教科等	学習内容	時数	学習活動の概要	推進の視点
5月	生活	地域探検に行こう	2	①避難場所になっている城山や、学校の裏山へ行く。	A
6月	特別活動	地震や津波のこわさや危険を知り、学校にいるときの避難の仕方を知る	1	①「南海地震にそなえちよき」で地震や津波こわさを知る。 ②授業中の避難の仕方を知る。	A C
6月	学校行事	避難訓練	1	①放送を聞いて、教師の指示のもと避難をする。(授業中) ②避難訓練についてふりかえる。	A
7月	道徳	たんじょう日	1	①自分が生まれた時の両親の願いについて話し合う。 ②教材を読んで、初めてお母さんの話を聞いたなつこは、どんなことを考えたか話し合う。 ③「命って大切なんだ」と思ったた経験を発表する。	B
9月	学校行事	避難訓練	1	①緊急地震速報を聞いて、自分で考えて避難をする。(休み時間) ②避難訓練についてふりかえる。	A
9月	特別活動	津波からの逃げ方を知る	1	①「津波から逃げる」を視聴する。 ②「津波から逃げる」を振りかえる。 ③ワークシート(学んだことをお家の人に伝えよう。)	A C
9月	生活	起震車体験	1	起震車に乗り、地震の揺れの強さを体験する。	A
9月	生活	地図を見てみよう	2	①自分の家や学校、通学路を地図上で確認する。 ②お家の人と一緒に地図を見ながら、危険な場所や安全な場所について話し合う。(参観日)	A
9月	宿題生活	通学路を歩いてみよう	1	①お家の人と一緒に自分の通学路を歩いて、危険な場所や安全な場所をチェックする。 ②調べてきたことを発表し、共通していた危険箇所について話し合う。	A B
10月 ～ 11月	生活	町たんけんにいこう	3	①町たんけんの準備をする。 ②グループに分かれてたんけんする。	A
11月	学校行事	家族と一緒に避難訓練	1	①自宅から指定避難場所に家族と一緒に避難する。 ②避難訓練についてふりかえる。	A

11月 ～ 12月	生活	発見したことを紹介しよう	4	①調べてきたことを拡大地図に書き込み、「ここにいたらどうするクイズ」を作る。 ②まとめた拡大地図を使ってグループごとに発表し合い、「ここにいたらどうするクイズ」をやる。	A
1月	学校行事	避難訓練	1	①保育園の園児と一緒に学校の裏山に避難訓練を行う。 ②避難訓練についてふりかえる。	A
1月	生活	マイひなんマップを作ろう	3	①調べた危険場所と避難場所をマイマップに書き込む。 ②避難経路について確認する。 ③お互いの地図を紹介し、発表しあう。	A
2月	道徳	ぼく	1	①教材を読んで、どんな考えで「ぼく」が一番好きな物は「ぼく」なのかについて話し合う。 ②「じぶんへのしょうじょう」を行い、感想を発表し合う。	B

総時間 21 時間

防災教育 第3学年指導計画

1. 目標

- ・地域の地形等を理解し、災害時の避難の仕方を知り、安全な行動ができるようにする。
- ・地震や津波が起こるわけを知り、それに伴う危険について考え、適切な避難の仕方を身につける。
- ・防災対策の準備について考え、防災意識を高める。

月	教科等	学習内容	時数	学習活動の概要	推進の視点
5月	総合的な学習の時間	学校周辺の校区探検をし、地域や通学路について知る	7	①地域にある主な建物や道路状況を知る。	A
5月	社会	須崎の地形について知る	5	①副読本「すさき」を用い、須崎の地形や地域の様子について学習する。	A
6月	学校行事	避難訓練	1	①放送を聞いて、教師の指示のもと避難をする。(授業中) ②避難訓練についてふりかえる。	A
9月	学校行事	避難訓練	1	①緊急地震速報を聞いて、自分で考えて避難をする。(休み時間) ②避難訓練についてふりかえる。	A
9月	道徳	健ちゃんをたすける	1	①教材を読んで、救援隊や町の人たちは、どんな気持ちで頑張っていたのかについて話し合う。 ②人の命を守るために力を尽くした実話について発表する。	B
9月	特別活動	津波からの逃げ方を知る	1	①「南海地震に備えちよき」を視聴し、話し合う。	A
10月 ～ 11月	特別活動	避難場所までの時間を知る	3	①地域ごとに避難場所までの経路を通り、実際にかかる時間について知る。 ②命について考える。	A B
11月	学校行事	家族と一緒に避難訓練	1	①自宅から指定避難場所に家族と一緒に避難する。 ②避難訓練についてふりかえる。	A
11月 ～ 12月	特別活動	避難方法を考える	2	①地震が起きたときの集合場所や避難経路について家族と話し合い、確認する。	A
1月	学校行事	避難訓練	1	①保育園の園児と一緒に学校の裏山に避難訓練を行う。 ②避難訓練についてふりかえる。	A
1月	道徳	いただいたいのち	1	①教材を読んで、お母さんが「ゆきは、たくさんの人からいのちをいただいたのよ。」と言った気持ちについて話し合う。 ②命の大切さについて話し合う。	B
1月 ～ 2月	総合的な学習の時間	避難マップ作り	3	①避難マップを作り、実際に避難する。	A

総時間 27 時間

防災教育 第4学年指導計画

1. 目標

- ・地域社会における災害から命を守る工夫について知り、安全な行動の仕方ができるようにする。
- ・南海地震について知り、現在の避難の仕方に生かす。
- ・南海地震の危険性について考えることで、防災意識を高める。

月	教科等	学習内容	時数	学習活動の概要	推進の視点
5月	社会	安全な暮らしと町づくり	2	①災害防止や緊急時に対処する体制やそこに働く人々の工夫や努力を知る ②消防署見学	B C
6月	学校行事	避難訓練	1	①放送を聞いて、教師の指示のもと避難をする。(授業中) ②避難訓練についてふりかえる。	A
7月	道徳	わたしの見つけた小さな幸せ	1	①教材を読んで、学校に行けることになった朝、「わたし」はどんな気持ちになったのか考える。 ②自分の生活を振り返り、生命を大切にしようとする。	B
9月	特別活動	地震や津波のこわさや危険を知り、学校にいるときの避難の仕方を知る	1	①「南海地震にそなえちよき」で地震や津波のこわさを知る。 ②授業中の避難の仕方を知る。	A C
9月	学校行事	避難訓練	1	①緊急地震速報を聞いて、自分で考えて避難をする。(休み時間) ②避難訓練についてふりかえる。	A
10月	特別活動	津波からの逃げ方を知る	1	①「津波から逃げる」を視聴する。 ②「津波から逃げる」をふりかえる。 ③感想を書く。	A
11月	学校行事	家族と一緒に避難訓練	1	①自宅から指定避難場所に家族と一緒に避難する。 ②避難訓練についてふりかえる。	A
11月	社会	災害からくらしを守る	3	①今まで各地に起こっている地震の被害について知る。 ②地震への備えを調べる。	C
12月	総合的な学習の時間	地区別の避難場所を考える	4	①通学路で地震が起きたときの安全な避難場所はどこか考える。 ②避難経路の危険な場所を確認する。 ③グループ別避難マップを作る ④安全に避難するために気をつけることは何かを考える。	A B
1月	学校行事	避難訓練	1	①保育園の園児と一緒に学校の裏山に避難訓練を行う。 ②避難訓練についてふりかえる。	A
1月	社会	避難マイマップを作成する	2	①避難場所と避難経路を確認する。 ②個人別避難マップを作る。 ③実際に避難する。	A
2月	道徳	走れ江ノ電光の中へ	1	①教材を読んで、お父さんはどんな考えで「とも君のままでいい」と言ったか話し合う。 ②人の命の尊さについて、感じた経験を話し合う。	B

総時間 17 時間

防災教育 第5学年指導計画

1. 目標

- ・仕方・地震の震度やマグニチュード、津波の速度や破壊力等について知り、安全な行動の仕方を学ぶ。
- ・地震速報や津波予報システムを知り、年少者を助けながら避難するを身につける。
- ・過去の南海地震の体験談を聞くことで、防災意識を高める。

月	教科等	学習内容	時数	学習活動の概要	推進の視点
5月	総合的な学習の時間	南海地震にそなえちよき	6	①はじめに・南海地震は必ず起こる ②地震から自分の命を守る(揺れ) ③地震から自分の命を守る(津波) ④地震から自分の命を守る(土砂災害) ⑤地震から自分の命を守る(避難生活) ⑥今から備えよう・おわりに	A C
6月	学校行事	避難訓練	1	①放送を聞いて、教師の指示のもと避難をする。(授業中) ②避難訓練についてふりかえる。	A
6月	道徳	命がないとはじまらん	1	①教材を読んで、リハビリをがんばるあっ君の姿を見て、「わたし」が胸が熱くなり、うれしくなってきた理由について話し合う。 ②自分の生活をふりかえって、「うれしい」と実感したことについて話し合う。	B
9月	学校行事	避難訓練	1	①緊急地震速報を聞いて、自分で考えて避難をする。(休み時間) ②避難訓練についてふりかえる。	A
9月	社会	くらしを支える情報	3	緊急地震速報が届く仕組みや情報を伝える放送局の働き、情報と私たちの生活との関わりについて考える。	C
10月	道徳	コースチャぼうやを救え	1	①教材を読んで、コースチャぼうやを救うために、多くの人が協力したのはどんな気持ちからなのかについて話し合う。 ②人の命を守ることの大切さについて話し合う。	B
11月	保健	けがの防止	4	けがの発生要因や防止の方法について理解できるようにする。また、けがなどの簡単な手当ができるようにする。	B
11月	学校行事	家族と一緒に避難訓練	1	①自宅から指定避難場所に家族と一緒に避難する。 ②避難訓練についてふりかえる。	A
11月～12月	総合的な学習の時間	地区別の避難場所を考える	4	①通学路で地震が起きたときの安全な避難場所はどこか考える。 ②安全に避難するために必要なことは何か考える。 ③避難経路の必要性を知る。	A
12月	道徳	稲むらの火	1	①地震が来た時の儀兵衛の心情を考える。 ②津波を察知した時の儀兵衛の心情を考える。 ③稲むらに火をつけた時の儀兵衛の心情を話し合う。	B

12月	特別活動	あなたならどうしますか？	1	災害時に遭遇する様々な困難な事態について自分なりに最善の策を見出していく方法を考える。	A
1月	学校行事	避難訓練	1	①保育園の園児と一緒に学校の裏山に避難訓練を行う。 ②避難訓練についてふりかえる。	A
1月 ～ 2月	総合的な 学習の時間	防災マイマップを作成する	5	①避難場所と避難経路を確認する。 ②避難マップを作る。 ③実際に避難する。	A

総時間 23 時間

防災教育 第6学年指導計画

1. 目標

- ・地震の震度やマグニチュード、津波の速度や破壊力等についてより詳しく調べ、安全な行動の仕方の理解を深める。
- ・地震速報や津波予報システムを理解し、年少者を助けながら避難する仕方を身につける。
- ・過去の南海地震の体験談や工夫を調べ、防災意識を高める。

月	教科等	学習内容	時数	学習活動の概要	推進の視点
4月	道徳	命の重さはみな同じ	1	①命を大切にした経験を話し合う。 ②「命の重さはみな同じ」と感じたり考えたりしたことはあるかを話し合う。	B
5月	学校行事 (修学旅行)	津波高潮対策・防災学習	2	①修学旅行先の津波高潮ステーションでの見学や、シュミレーション体験をする。	A
6月	理科	地震のメカニズムを知る	2	①火山活動や地震による断層の仕組みや、地震の規模や震度について知る。	C
6月	学校行事	避難訓練	1	①放送を聞いて、教師の指示のもと避難をする。(授業中) ②避難訓練についてふりかえる。	A
9月	社会・ 総合的な 学習の時間	気象庁Cアラートの仕組みを知る	2	①緊急地震速報の仕組みと働きについて理解する。	C
9月	学校行事	避難訓練	1	①緊急地震速報を聞いて、自分で考えて避難をする。(休み時間) ②避難訓練についてふりかえる。	A
10月	社会	地震津波の歴史を知る	1	①須崎市の津波に襲われた歴史を知り、今後もしばしば襲われることについて理解する。	C
10月	総合的な 学習の時間	津波に対する備えを学習する	1	①いろいろな場面を想定し、何を準備しておくか知る。	A C
10月	保健	ライフライン・共同生活について知る	2	①一人や共同生活での支援活動を知るとともに、ライフラインや緊急電話の大切さについて学ぶ。	A B
11月	学校行事	家族と一緒に避難訓練	1	①自宅から指定避難場所に家族と一緒に避難する。 ②避難訓練についてふりかえる。	A
11月 ～ 12月	総合的な 学習の時間	学習内容をテーマ別に調べ、ポスターセッションをする	4	①学習のテーマをグループ別に決め、調べたことをまとめる。 ②ポスターセッションで発表し友だちに知らせる。	A B C
1月	学校行事	避難訓練	1	①保育園の園児と一緒に学校の裏山に避難訓練を行う。 ②避難訓練についてふりかえる。	A

1月	道徳	お母さんへの手紙	1	①佐江子がどんな気持ちでお母さんへ手紙を書いたのか話し合う。 ②命の大切さについて、家族と話し合ったことなどを振り返る。	B
1月	総合的な学習の時間	避難マップ・避難経路の案内板作り	4	①通学時の避難場所の確認と各児童の家と学校の間で地震発生時、津波から逃れるための一番近い避難場所の確認とマップを作成する。 ②校区周辺の避難経路と避難場所を確認し、起点場所からの距離を測り、市や地域住民と一緒に案内板を建て、住民がスムーズに避難できる案内板等を設置する ③地域の人との聞き取りや過去の津波のフィールドワーク	A
2月	総合的な学習の時間	学習のまとめと人権集会での発表	3	①防災教育で取り組んだことをまとめる ②人権集会で、地域や行政と取り組んだ案内板作りの苦労や成果について発表する。	A B

総時間 21 時間

防災教育学習指導案

第1学年 生活科（防災学習）学習指導案

平成24年12月5日（水） 第5校時
児童数 1年1組 男子7名 女子9名 計16名
指導者 1年1組担任 間瀬 多恵
学習室2担任 竹田わか乃

1. 単元名 『だいすき・すさき』
～地震から身を守ろう～

2. 単元について

子どもたちの生活する地域・家庭は子どもたちにとって生活の場であるとともに、人とのかかわりを学ぶ場でもある。本単元では、自分たちの学校や市が、大好きだという意識を持たせ、「学校や通学路の危険な場所や安全を守るものを知り、自分は多くの人々から守られていることを知り、安全な過ごし方について自分なりに考えながら、安心して生活することができる」ことを学ばせることを最終的なねらいとしている。私たちが住んでいる高知県土佐湾沖でも、近い将来、南海地震が発生するであろうと予測されている。本校は、昭和の南海地震の時も、津波で大きな被害を受けている須崎市の中心部にある。海岸からも約400メートルのところにあり、地震のあとは、約20メートルの津波が来ると予測されている。そこで、生活科の時間を中心にして、学校や地域探検をし、地域や人を知り、危険な場所・避難場所・避難経路を確認しながら、どのようにしたら危険から自分の命を守ることができるかを考えさせていきたい。

本学級の児童は、授業中や休み時間に地震が発生した時の避難訓練は何度か経験してきた。また、起震車にも乗せてもらい、震度5の体験も行った。もうすぐ南海地震が起こるかもしれないことは知っており、真剣に訓練に取り組むことができている。しかし、揺れている時どんなことが起こるのか、また、揺れがおさまった後、状況を見てからどうしたらいいのかなど、未学習のことがまだまだたくさんある。

そこで本単元の学習を通して、地震・津波についての正しい知識を身につけ、危機意識を高めていき、いつどこで起こるかかわからない地震・津波から「自分のいのちは自分で守る」ことができるための力を身につけさせたい。また、学習の際には、地震や津波への恐怖心を過剰に感じさせないような配慮もしていきたい。

本時は、これまでに学習した「マイマップ」づくりや、地震や津波に関する基礎知識をもとに、学校の教室以外の場所で、地震が発生した時にはどのような危険が予測されるか、その時、怪我を少なくし自分の身を守るにはどのような対処をしたら良いのかをみんなで考え、いざという時に適切な行動がとれるようにさせていきたい。

3. 単元目標 学校や地域を知り、避難場所・避難方法を知る。(推進の視点A)
学校や家にいるとき、また登下校中に、地震・津波から命を守る方法を知る。
(推進の視点A)
地震や津波に対しての正しい知識を身につけ、防災意識を高める。(推進の視点C)

4. 評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分についての 気付き
自分たちの地域に関心を持ち、地震が起きた時に起こる出来事について考えようとしている。	安全な避難場所や避難方法を自分なりに考え、考えたことを話し合いやマップ作りで表現している。	私たちの生活の安全は、地域の人々や様々な場所とかかわりがあることに気付いている。

5. 指導計画 (全17時間 本時12/17)

	時間	学習活動	学習内容	評価(方法)
一次	5時間	・学校探検・校区探検をし、学校や地域を知る。	・学校や地域を歩きながら、目印になる物や、避難場所を確認する。	・学校や地域を探検し、すてきな所や危険な場所を考えることができたか。 【関心・意欲・態度】 (行動観察・発表)
二次	3時間	・「マイマップ」(個人マップ)を作成し安全な避難場所を知る。	・通学路を確認し、自分の避難場所を知る。	・校外で地震が起きたときに、どこに避難すればよいかを知ることができたか。 【気付き】 (ワークシート)
三次	2時間	・地震、津波の基礎知識を身につける。	・地震や津波は、どうして起きるのかを知る。 ・揺れの大きさによってどのようなことが起こるのかを知る。	・地震や津波について興味を持って学習することができたか。 【関・意・態】 (行動観察・発表)
四次	4時間 本時2/4	・地震、津波から身を守るために必要なことを知り、大切なことを考える。	・学校にいる時に、地震が起きたらどのような行動をとったらいいのかを考える。(2時間) ・登下校中に、地震が起きたらどのような行動をとったらいいのかを考える。(1時間) ・家にいる時に地震が起きたらどのような行動をとったらいいのかを考える。(1時間)	・地震が起きたとき、身を守るためにどのように行動したらよいかを考えることができたか。 【思・表】 (ワークシート・発表)
五次	3時間	・「マイマップ」や「すさきマップ」にまとめる。	・危険箇所、安全な避難場所や避難経路をもとにまとめる。	・協力して、「マイマップ」や「すさきマップ」に危険箇所や避難場所をまとめることができたか。 【思・表】 (行動観察)

6. 本時の指導

(1) 目標 学校の教室以外で、地震が発生した時の対処の方法を話し合い、地震や津波から自分の命を守る方法を知る。

(2) 準備物 地震の震度の資料、掲示用写真、ワークシート

(3) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価（方法）
1、地震が起こったら教室は、 どうなるかを振り返る。	○地震が起こったら教室はどうなる か想起させる。	
じぶんのみをまもるには、どうしたらよいかをかんがえよう。		
2、学校の中で、教室以外の場 所で地震が起こったらど うなるか考える。 ・ 体育館 ・ 図書室 ・ 中庭	○自分たちがよく活動する場所で、 どうということが起こるか考えさせ る。 体育館 ・ ガラスが割れる。 ・ 電気が落ちてくる。 図書室 ・ 本棚が倒れる。 ・ 本がばらばらになる。 中庭 ・ 校舎の窓ガラスがとんでくる。 ・ 遊具がこわれる。	
3、自分の身を守るためにはど うしたらよいか考える。	○安全に避難するにはどうしたらよ いか考えさせる。 ・ 体育館・図書室・中庭での避難 方法について個人で考えた後、 ワークシートにまとめ、ペアで 話し合わせる。	・ 地震が起きた時、 身を守るためにど のように行動した らよいかを考える ことができたか。 【思・表】 (ワークシート・発 表)
4、発表する。	・ ガラスが飛び散らない所でしゃが む。 ・ 物が倒れてこない所に移る。 ・ 電気の下に行かない。	
5、本時のまとめをする。	○地震が起きた時は、何よりも自分 の命を守ることが大切であることを 押さえさせる。	

第1学年 生活科（防災学習）学習指導案

平成24年12月5日（水） 第5校時

児童数 1年2組 男子8名 女子9名 計17名

指導者 1年2組担任 竹田 美保

1. 単元名 『だいすき・すさき』 ～地震から身を守ろう～

2. 単元について

子どもたちの生活する地域・家庭は子どもたちにとって生活の場であるとともに、人とのかかわりを学ぶ場でもある。本単元では、自分たちの学校や市が、大好きだという意識を持たせ、「学校や通学路の危険な場所や安全を守るものを知り、自分は多くの人々から守られていることを知り、安全な過ごし方について自分なりに考えながら、安心して生活することができる」ことを学ばせることを最終的なねらいとしている。私たちが住んでいる高知県土佐湾沖でも、近い将来、南海地震が発生するであろうと予測されている。本校は、昭和の南海地震の時も、津波で大きな被害を受けている須崎市の中心部にある。海岸からも約400メートルのところにあり、地震のあとは、約20メートルの津波が来ると予測されている。そこで、生活科の時間を中心にして、学校や地域探検をし、地域や人を知り、危険な場所・避難場所・避難経路を確認しながら、どのようにしたら危険から自分の命を守ることができるかを考えさせていきたい。

本学級の児童は、授業中や休み時間に地震が発生した時の避難訓練は何度か経験してきた。また、起震車にも乗せてもらい、震度5の体験も行った。もうすぐ南海地震が起こるかもしれないことは知っており、真剣に訓練に取り組むことができている。しかし、揺れている時どんなことが起こるのか、また、揺れがおさまった後、状況を見てからどうしたらいいのかなど、未学習のことがまだまだたくさんある。

そこで本単元の学習を通して、地震・津波についての正しい知識を身につけ、危機意識を高めていき、いつどこで起こるかかわからない地震・津波から「自分のいのちは自分で守る」ことができるための力を身につけさせたい。また、学習の際には、地震や津波への恐怖心を過剰に感じさせないような配慮もしていきたい。

本時は、これまでに学習した「マイマップ」づくりや、地震や津波に関する基礎知識をもとに、学校の教室以外の場所で、地震が発生した時にはどのような危険が予測されるか、その時、怪我を少なくし自分の身を守るにはどのような対処をしたら良いのかをみんなで考え、いざという時に適切な行動がとれるようにさせていきたい。

3. 単元目標 学校や地域を知り、避難場所・避難方法を知る。（推進の視点 A）
学校や家にいるとき、また登下校中に、地震・津波から命を守る方法を知る。
（推進の視点 A）
地震や津波に対しての正しい知識を身につけ、防災意識を高める。（推進の視点 C）

4. 評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分についての 気付き
自分たちの地域に関心を持ち、地震が起きた時に起こる出来事について考えようとしている。	安全な避難場所や避難方法を自分なりに考え、考えたことを話し合いやマップ作りで表現している。	私たちの生活の安全は、地域の人々や様々な場所とかかわりがあることに気付いている。

5. 指導計画 (全17時間 本時12/17)

	時間	学習活動	学習内容	評価(方法)
一次	5時間	・学校探検・校区探検をし、学校や地域を知る。	・学校や地域を歩きながら、目印になる物や、避難場所を確認する。	・学校や地域を探検し、すてきな所や危険な場所を考えることができたか。 【関心・意欲・態度】 (行動観察・発表)
二次	3時間	・「マイマップ」(個人マップ)を作成し安全な避難場所を知る。	・通学路を確認し、自分の避難場所を知る。	・校外で地震が起きたときに、どこに避難すればよいかを知ることができたか。 【気付き】 (ワークシート)
三次	2時間	・地震、津波の基礎知識を身につける。	・地震や津波は、どうして起きるのかを知る。 ・揺れの大きさによってどのようなことが起こるのかを知る。	・地震や津波について興味を持って学習することができたか。 【関・意・態】 (行動観察・発表)
四次	4時間 本時2/4	・地震、津波から身を守るために必要なことを知り、大切なことを考える。	・学校にいる時に、地震が起きたらどのような行動をとったらいいのかを考える。(2時間) ・登下校中に、地震が起きたらどのような行動をとったらいいのかを考える。(1時間) ・家にいる時に地震が起きたらどのような行動をとったらいいのかを考える。(1時間)	・地震が起きたとき、身を守るためにどのように行動したらよいかを考えることができたか。 【思・表】 (ワークシート・発表)
五次	3時間	・「マイマップ」や「すさきマップ」にまとめる。	・危険箇所、安全な避難場所や避難経路をもとにまとめる。	・協力して、「マイマップ」や「すさきマップ」に危険箇所や避難場所をまとめることができたか。 【思・表】 (行動観察)

6. 本時の指導

(1) 目標 学校の教室以外で、地震が発生した時の対処の方法を話し合い、地震や津波から自分の命を守る方法を知る。

(2) 準備物 地震の震度の資料、掲示用写真、ワークシート

(3) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価（方法）
1、地震が起こったら教室は、 どうなるかを振り返る。	○地震が起こったら教室はどうなる か想起させる。	
じぶんのみをまもるには、どうしたらよいかをかんがえよう。		
2、学校の中で、教室以外の場 所で地震が起こったらど うなるか考える。 ・ 体育館 ・ 図書室 ・ 中庭	○自分たちがよく活動する場所で、 どうということが起こるか考えさせ る。 体育館 ・ ガラスが割れる。 ・ 電気が落ちてくる。 図書室 ・ 本棚が倒れる。 ・ 本がばらばらになる。 中庭 ・ 校舎の窓ガラスがとんでくる。 ・ 遊具がこわれる。	
3、自分の身を守るためにはど うしたらよいか考える。	○安全に避難するにはどうしたらよ いか考えさせる。 ・ 体育館・図書室・中庭での避難 方法について個人で考えた後、 ワークシートにまとめ、ペアで 話し合わせる。	・ 地震が起きた時、 身を守るためにど のように行動した らよいかを考える ことができたか。 【思・表】 (ワークシート・発 表)
4、発表する。	・ ガラスが飛び散らない所でしゃが む。 ・ 物が倒れてこない所に移る。 ・ 電気の下に行かない。	
5、本時のまとめをする。	○地震が起きた時は、何よりも自分 の命を守ることが大切であることを 押さえさせる。	

第2学年 生活科（防災学習）学習指導案

平成24年12月5日（水）第5校時

児童数 2年 42名（男子27名、女子15名）

指導者 2年1組担任 佃 晶子

2年2組担任 中道 美保

1. 単元名 レッツゴー！ ぼうさい町たんけん

2. 単元について

本校は、須崎湾のすぐそばに位置している。今後起こるとされる南海大地震での津波予測によると、甚大な被害が予想される地域であり、全校挙げて防災教育に取り組んでいる。生活科の目標には「集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、安全で適切な行動ができるようにする。」とある。特に、安全については、自然災害、交通災害、人的災害に十分気を付けた適切な行動や危険を回避する行動などができることにも配慮する必要性が述べられている。そこで、これらの目標を受けて、防災の観点を軸において、町探検を通して地域の理解と防災意識の高まりを狙った単元を設定した。友だちや家族と協力して町探検や話し合いをすることを通して、地域の危険な場所や避難場所について把握し、どのように避難すればよいか自分で判断し行動できる児童を育てていきたいと考えた。

本学年の児童はこれまでに、地震・津波に関するDVD視聴・紙芝居、緊急地震速報を使っ
ての避難訓練、起震車体験など、地震や津波に対して関心を持って学習をしてきた。避難訓練では、授業中や休み時間などいろいろな場面を想定して繰り返し行ってきた。そのため学校での地震時の避難方法や行動については理解しており、状況に合わせて避難の行動をとることができるようになってきている。しかし、地震はいつどこで発生するか分からず、またまわりに大人がいるとも限らない。特に、放課後や登下校中は子どもたちだけでいる可能性が高く、自分で判断し行動できる力をつけなくてはならない。そのためには、自分たちの住む地域のどこが危険でどこへ避難すればよいかを知っておくことは大変重要である。

本単元の活動を通して、自分たちの地域の様子を知ることに加えて、地震の時に危険な箇所があり、場所や状況に応じて自分で判断して行動することが大切であることに気づかせていく。さらに、友だちや家族と協力しながら、主体的に探検活動や話し合い活動を行い、自ら進んで取り組もうとする意欲を育てたい。

本時では、町探検をして分かったことをまとめた地図を友達と発表し合い、危険予測について考える「ここにいたらどうするクイズ」をする。大地震の時にどう行動するかを、自分だけでなく友だちと一緒に考え、お互いの意見を発表し合う時間を大切にしながら、防災への意識を高めていきたい。

3. 目標

○自分たちが住む町を探検し、町の様子や公共物などに関心を持つとともに、自分たちの生活は地域の様々な場所と関わっていることが分かり、それらに興味・関心を持ち、安全に生活することができる。

○いざという時に自分で判断し、行動できる力をつける。(推進の視点A)

4. 評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
自分の生活している町に関心を持ち、友だちや家族と協力して町を探検している。地域の危険な箇所や避難経路について話し合おうとしている。	地域の様々な場所に目を向け、安全に生活することについて考えたり、町探検で危険箇所や避難経路など発見したことや気付いたことについて、自分なりの考えを持ち表現したりすることができる。	町の様子や公共物と自分たちの生活や安全とのかかわりについて気付く。

5. 指導計画（全13時間 本時10/13）

時間	学習活動	学習内容	評価規準（方法）
第1・2時	地図を見よう。	○地図を見て、自分の家の場所を探す。家から学校までの通学路にしるしをつける。 ○地図を見て、親子で通学路の危険な場所を思い出し、付箋に書いて地図上にはる。（参観日）	自分の生活している町に関心を持ち、地域の危険な箇所や避難経路について話し合おうとしている。【関心・意欲・態度】（行動観察）
実際に親子で通学路を歩き、危険な所を確認する。見つけた場所、新たに発見したこと、親と子の歩いてみての感想などをワークシートに記入する。（親子の家庭学習）			

第3時	グループ 交流	調べてきたことをワークシートをもとに、グループで発表し、 <u>共通していた危険箇所</u> について話し合う。	町探検で発見したことや気付いたことについて、自分なりの考えを持ち表現したりすることができる。【思考・表現】（ワークシート・行動観察）
第4～6時	町たんけんにいこう	○町たんけんの準備 グループで <u>共通していた危険箇所</u> から何の数を数えに行くか、テーマを決める。 たんけんの約束ごとや持ち物などを考える。 ○グループごとに探検に出かける。	自分の生活している町に関心を持ち、友だちと協力して町を探検している。【関心・意欲・態度】（行動観察）
第7～10時	はっ見したことを しょうかいしよう	○調べてきたことを拡大地図に書き込み、グループごとにまとめる。ここにいたらどうするクイズを作る。 ○まとめた拡大地図を使ってグループごとに発表し合う。ここにいたらどうするクイズを出したり、答えたりする。（本時）	地域の様々な場所に目を向け、安全に生活することについて考えたり、町探検で発見したことや気付いたことについて、自分なりの考えを持ち表現したりすることができる。【思考・表現】（行動観察・地図）
第11～13時	マイマップを作ろう	○これまで調べてきたことをもとに、自分の家から学校までの通学路付近の危険なところや、避難場所、避難経路を書き込んだマイマップを作る。 ○発表し合う。学習のまとめをする。	町の様子や公共物と自分たちの生活や安全とのかかわりについて気付く。【気付き】（ワークシート） 地域の様々な場所に目を向け、安全に生活することについて考えたり、町探検で発見したことや気付いたことについて、自分

			なりの考えを持ち表現したりすることができる。【思考・表現】 (行動観察・地図)
--	--	--	---

6. 本時の指導

(1) 目標

○町探検で見つけたことや気付いたことを友達に伝えようとしたり、友だちの発表やクイズを意欲的に聞いたりすることができる。

(2) 準備物

グループの発表用拡大地図（防災マップ）

(3) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価(方法)
1. これまでの学習をふりかえり、本時の課題を知る。		
たんけんして、わかったことをはっぴょうしよう！		
2. 探検して分かったことを発表し、ここにいたらどうするクイズをする。 ① 1 グループずつ前に出て発表する。 ② グループごと防災マップを示しながら、発見したことやわかったことなどを発表する。 ③ 各グループ 1 問ずつクイズを出題する。	・発表の仕方（相手に伝わるような話し方・態度）や、発表の順番、聞く態度について確認する。 ・自分たちが発見したことや、考えたこと、感想なども入れて発表させる。 ・クイズの答えを考える際は、なぜそう思ったのか理由まで言えるようにさせる。 ・考えが思い浮かばない児童は、友だちと相談してもよいことを伝える。	町探検で見つけたことや気付いたことを友達に伝えようとしたり、友だちの発表やクイズを意欲的に聞いたりしている。 【関心・意欲・態度】 (発表・態度)
3. 本時のまとめをする。	・これまで調べてきたことなどを伝え合い、一人ひとりが防災について考えることができたことに価値があることを話す。	

第3学年 特別活動（防災学習）学習指導案

平成24年12月5日（水）第5校時

児童数 3年 34名（男子14名、女子20名）

指導者 3年担任 谷岡 園巳

児童支援 五十嵐 彰英

1. 題材 その時、あなたは（避難方法を考える）

2. 題材について

学習指導要領では、学級活動（2）ーカ「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」において、「安全指導として、『防犯を含めた身の回りの安全、交通安全、防災など、自分や他の生命を尊重し、危険を予測し、事前に備えるなど日常生活を安全に保つために必要な事柄を理解し、進んで決まりを守り、危険を回避し、安全に行動できる能力や態度を育成する』必要性が述べられている。そこで、近い将来に起こるであろうと言われている南海地震に備え、いついかなる時でも自らの命を守ることができるよう本題材を設定した。子どもたちは、学校にいるときには避難訓練を通して安全に避難することを学習している。これからは、登下校時や遊んでいる時等の避難場所や方法を確認する必要がある。そこで、避難マップを作ることを通して、いざという時に慌てず冷静に判断し行動する力を身に付けさせたいと考えている。

本学級の児童は、明るく元気で何事にも前向きに取り組む。これまで何度も避難訓練を経験しているせいか、先日休み時間の避難訓練においても、運動場の中央に集まり、静かに待機することができた。危険回避の意識は十分高まってきていると思うが、自分一人の時に冷静な判断や行動ができるかどうかは不安である。

そこで指導にあたっては、家庭や地域ごとのグループで、その場に応じた避難のしかたを話し合わせ、確認していくことで、一人でも適切に行動できる力を付けていきたい。本時は、学校や家庭以外で地震が起こった時の避難方法について、地域ごとのグループで話し合わせ、友だちにしっかりと伝わるように説明するようにさせたい。

3. 目標 どんな時でも安全に避難する方法を考える。（推進の視点A）

4. 評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
・自分の住む地域の特徴を捉え、地震や津波が起きたときの適切な避難経路について考えようとしている。	・地震や津波が起きたときの安全な避難経路を考えている。	・地震や津波が起きたときの安全な避難経路を知る。

5. 指導計画（全2時間 本時 2/2）

時間	学習活動	学習内容	評価（方法）
学校行事	・家族と一緒に避難訓練	・家から家族と一緒に指定避難場所へ避難して、避難経路と避難時間を知る。	・地震や津波が起きたときの家から指定避難場所への安全な避難経路と避難時間を知る。 【知識・理解】（感想文）
第1時	・地震が起こった時の家からの正しい避難経路について考える。	・避難訓練をふりかえり、家に居る時に地震が起こった場合の避難経路を考える。	・自分の住む地域の特徴を捉え、地震や津波が起きたときの家から指定避難場所への適切な避難経路について考えようとしている。 【関心・意欲・態度】（発表）
第2時 （本時）	・地震が起こった時の学校や家以外の場所からの正しい避難経路について考える。	・学校や家以外の場所で地震が起こった場合の避難経路について考える。	・学校や家以外の場所で地震や津波が起きたときの安全な避難経路を考えている。 【思考・判断・実践】（ワークシート） ・学校や家以外の場所で地震や津波が起きたときの安全な避難経路を知る。 【知識・理解】（ワークシート）
放課後	・通学路からの避難	・通学路を通りながら、避難経路を確認する。	・学校や家以外の場所で地震や津波が起きたときの安全な避難経路を確認する。 【知識・理解】（感想文）

6. 本時の指導

- (1) ねらい 学校や家以外の場所で地震が起こった時の安全に避難する経路を考える。
(推進の視点A)

- (2) 準備物 拡大マップ，児童用マップ，ワークシート

(3) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価（方法）
1. 家に居る時の避難場所を確認する。	・「家族と一緒に避難訓練」の ときのことや前時の学習を 思い出させる。	
どんな時でも、安全に避難できるようにしよう。		
2. 登下校中や遊んでいる 時の避難経路を考える。 ・自分がいつも遊んでいる 場所や習い事などで日 常的に行動している範 囲を考える。 ・自分がいる場所ごとに避 難経路を色分けして、自 分のマップに記入する。	・自分のいる場所から一番近 い避難場所を見つけ、場所 ごとに色分けをしながら自 分の避難経路をマップに書 き込むように指示する。	
3. グループごとに避難経 路を話し合う。 ・地域ごとに4つのグルー プに分かれ、どこにどの 道を通って避難したら よいのかを自分の考え をもとに話し合う。	・それぞれが考えた避難経路 をもとに話し合うように助 言する。 ・違う意見が出た時には、ど ちらがよいか話し合って決 めるように助言する。	・学校や家以外の場所で地震や 津波が起きたときの安全な 避難経路を考えている。 【思考・判断・実践】 (ワークシート)
4. 話し合ったことをグル ープごとに代表が発表 する。 ・自分たちが参考になるこ とをメモしながら聞く。	・他のグループに伝わるよう に説明するように指示す る。	
5. 話し合ったことをもと に自分の避難経路を確 認する。	・全体の協議で学んだことを ふまえて振り返るように助 言する。	・学校や家以外の場所で地震や 津波が起きたときの安全な 避難経路を知る。 【知識・理解】 (ワークシート)

第4学年 総合的な学習の時間（防災学習）学習指導案

平成24年12月5日（水） 第5校時

児童数 4年1組 男子10名 女子13名 計23名

指導者 4年1組担任 吉本 幸司

1. 単元名 地区別の避難場所を考えよう

2. 単元について

本校4年生の総合的な学習の時間は、「ハートフル すさき つながる心」をテーマに地域の方々と出会うことで自分たちの町のすばらしさに気付かせたいと考えている。そこで、地域の方々との交流学習を中心にしながら地域の方の思いを知り、自分たちにもできることはないかを考えさせていく学習を計画することにしている。

先の東日本大震災から、地震・津波の恐ろしさを目の当たりにし、須崎市においても、今後30年以内には起こるだろうと言われている南海大地震に備えることは喫緊の課題となっている。

本校は海から非常に近い場所にあり、津波による被害があると推測されている。『住みよい須崎の町』を考えた時に、いつ起こるか分からない災害に備え、自分たちの住んでいる町で安全な場所はどこなのか・危険箇所はどこかを調べ、避難防災マップの作成を行っていくことは、「住みよい町」づくりにつながる意義のある学習活動となると考える。そのためには、地震・津波の正しい知識を身につけ、危機意識を高めながら自ら適切な行動ができるよう、何が必要なのか、何ができるのかを常に意識させ、最終的には「自分の命を自分で守る」避難防災マイマップ作りへとつなげていきたいと考える。本単元では、クラス全体で確認しながら避難防災マップを作成していく。

本学年の児童は、先の東日本大震災が起こった時は、2年生であった。連日報道されていた震災の様子をテレビの画面から何度か見て津波の恐ろしさは感じ取っている。また、被災地からの転入生が一名いることもあり、震災の被害について身近に感じている児童もいる。これまでに何度か行った避難訓練では、真剣に行動する児童が多くいたが、先日行った突然の訓練では、避難経路を間違ったり指示を聞かずに飛び出したりするなどのアクシデントがあった。いつ何時起こるのか分からない地震にあわてず落ち着いて行動することや、一人でも行動できる力を身につけさせなければならない。

本時の学習では、社会科の時間に、「自分の命を自分で守る」ために、南海大地震の津波の高さ・速さ・強さなど視聴覚教材を活用して学習したことや、先日行った防災キャンプでの学習を思い出しながら、町の中の指定避難場所を確認していく。そして、地域のどこにいても安全な場所に逃げるのができるように、『○の場所にいたら、□の避難場所に逃げる。』など地図上に避難場所の色分けをする活動をグループで考えさせていき、全体では、必要な情報（地震によって通れなくなっている道もあるなど）を出し合いながら、精選し確認して行く。

3. 目標

- ・地域の避難場所や防災設備について調べ、住みよい町について考える。(推進の視点 A)
- ・災害から命を守る工夫について知り、安全な行動の仕方ができるようにする。(推進の視点 A)
- ・津波地震の簡単なメカニズムを知るとともに、地域の地理的特徴を理解する。(推進の視点 C)

4. 評価規準

関心・意欲・態度	学ぶ力・考える力	表現力
・自分たちの住む地域の特徴を捉え、安全な避難場所を考えようとしている。	・安全な避難方法を考えている。 ・災害時に起こる被害を予想しながら、避難時に気をつけることを考えている。	・地域の方から必要な情報を集め、グループで防災避難マップにまとめている。

5. 指導計画（全4時間、本時1／4）

時	学習活動	学習内容	評価（方法）
1 時 間 本 時	・安全な指定避難場所を考える。	・地域のどこにいても、安全に避難できるように、町全体の指定避難場所を確認していく。	・自分たちの住む地域の特徴を捉え、安全な指定避難場所を考えている。【関心・意欲・態度】（発言、行動観察）
1 時 間	・避難経路の危険な場所を確認する。	・個人で調べてきたことを発表し確認していく。	安全な避難方法を考えている。【学ぶ力・考える力】（ワークシート、発言）
1 時 間	・避難防災マップ作り（グループ）	・避難防災マップに調べたことをまとめる。	・必要な情報を集めたことを避難防災マップにまとめている。【表現力】（避難防災マップ）
1 時 間	・学習の振り返り	・安全に避難するために気をつけることは何かを考える。	・災害時に起こる被害を予想しながら、避難時に気をつけることを考えている。【学ぶ力・考える力】（発言、ワークシート）

6. 本時の指導

（1）目標

地域のどこにいても安全に避難できるように、指定避難場所を考える。

(2) 準備物

須崎市の地図（大判・グループ用の地図 6 枚）・ワークシート

(3) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価
1. 指定避難場所を確認する。	・防災キャンプのことを思い出させる。 ・西・北・東の指定避難場所を確認する。	
どんな場所においても、安全にひなでできる場所をさがそう。		
2. どんな場所においても安全に避難できるように、地域の地図に色分けしながら考える。 (グループ活動) ※指定避難場所の範囲を色分けする。 ①自分の家の近くを中心を考える。 ②他の地区を考える。	・グループに須崎市の地図を配付し、具体的に考えられるようにする。 ・『○の場所にいたら、□の避難場所に逃げる。』などを考えながら、指定避難場所へ行く範囲を色分けしていく。 ・道路が広く、建物が倒れていても通れる道など、逃げやすい道を理由として考えるように声掛けをしていく。	・自分たちの住む地域の特徴を捉え、安全な指定避難場所を考えている。【関心・意欲・態度】(発言、行動観察)
3. グループで考えた地図を見合いながら、色分けの理由を報告し、確認しあっていく。	・避難場所を選んだ理由を聞きながら、安全な場所なのかを確認し合う。	
4. 次時への課題を持たせる。 ・一人ひとりが『避難キーワード』を考える。 (ワークシート)	・「自分の命は自分で守る」ための心構えと、自分のためになる学習を今後も心がけていけるように、キーワードを一人ひとりに考えさせる。 (予想されるキーワード) ○ゆれがおさまってから行動 ○落ち着いて行動 ○高台へGO ○頭をまもる	

第4学年 総合的な学習の時間（防災学習）学習指導案

平成24年12月5日（水）第5校時

児童数 4年2組 男子9名 女子13名 計22名

指導者 4年2組担任 渡邊 瑞子

1. 単元名 地区別の避難場所を考えよう

2. 単元について

本校4年生の総合的な学習の時間は、「ハートフル すさき つながる心」をテーマに地域の方々と出会うことで自分たちの町のすばらしさに気付かせたいと考えている。そこで、地域の方々との交流学習を中心にしながら地域の方の思いを知り、自分たちにもできることはないかを考えさせていく学習を計画することにしている。

先の東日本大震災から、地震・津波の恐ろしさを目の当たりにし、須崎市においても、今後30年以内には起こるだろうと言われている南海大地震に備えることは喫緊の課題となっている。

本校は海から非常に近い場所にあり、津波による被害があると推測されている。『住みよい須崎の町』を考えた時に、いつ起こるか分からない災害に備え、自分たちの住んでいる町で安全な場所はどこなのか・危険箇所はどこかを調べ、避難防災マップの作成を行っていくことは、「住みよい町」づくりにつながる意義のある学習活動となると考える。そのためには、地震・津波の正しい知識を身につけ、危機意識を高めながら自ら適切な行動ができるよう、何が必要なのか、何ができるのかを常に意識させ、最終的には「自分の命を自分で守る」避難防災マイマップ作りへとつなげていきたいと考える。本単元では、クラス全体で確認しながら避難防災マップを作成していく。

本学年の児童は、先の東日本大震災が起こった時は、2年生であった。連日報道されていた震災の様子をテレビの画面から何度か見て津波の恐ろしさは感じ取っている。また、被災地からの転入生が一名いることもあり、震災の被害について身近に感じている児童もいる。これまでに何度か行った避難訓練では、真剣に行動する児童が多くいたが、先日行った突然の訓練では、避難経路を間違ったり指示を聞かずに飛び出したりするなどのアクシデントがあった。いつ何時起こるのか分からない地震にあわてず落ち着いて行動することや、一人でも行動できる力を身につけさせなければならない。

本時の学習では、社会科の時間に、「自分の命を自分で守る」ために、南海大地震の津波の高さ・速さ・強さなど視聴覚教材を活用して学習したことや、先日行った防災キャンプでの学習を思い出しながら、町の中の指定避難場所を確認していく。そして、地域のどこにいても安全な場所に逃げるのができるように、『○の場所にいたら、□の避難場所に逃げる。』など地図上に避難場所の色分けをする活動をグループで考えさせていき、全体では、必要な情報（地震によって通れなくなっている道もあるなど）を出し合いながら、精選し確認して行く。

3. 目標

- ・地域の避難場所や防災設備について調べ、住みよい町について考える。(推進の視点 A)
- ・災害から命を守る工夫について知り、安全な行動の仕方ができるようにする。(推進の視点 A)
- ・津波地震の簡単なメカニズムを知るとともに、地域の地理的特徴を理解する。(推進の視点 C)

4. 評価規準

関心・意欲・態度	学ぶ力・考える力	表現力
・自分たちの住む地域の特徴を捉え、安全な避難場所を考えようとしている。	・安全な避難方法を考えている。 ・災害時に起こる被害を予想しながら、避難時に気をつけることを考えている。	・地域の方から必要な情報を集め、グループで防災避難マップにまとめている。

5. 指導計画（全4時間、本時1／4）

時	学習活動	学習内容	評価（方法）
1 時 間 本 時	・安全な指定避難場所を考える。	・地域のどこにいても、安全に避難できるように、町全体の指定避難場所を確認していく。	・自分たちの住む地域の特徴を捉え、安全な指定避難場所を考えている。【関心・意欲・態度】（発言、行動観察）
1 時 間	・避難経路の危険な場所を確認する。	・個人で調べてきたことを発表し確認していく。	安全な避難方法を考えている。【学ぶ力・考える力】（ワークシート、発言）
1 時 間	・避難防災マップ作り（グループ）	・避難防災マップに調べたことをまとめる。	・必要な情報を集めたことを避難防災マップにまとめている。【表現力】（避難防災マップ）
1 時 間	・学習の振り返り	・安全に避難するために気をつけることは何かを考える。	・災害時に起こる被害を予想しながら、避難時に気をつけることを考えている。【学ぶ力・考える力】（発言、ワークシート）

6. 本時の指導

（1）目標

地域のどこにいても安全に避難できるように、指定避難場所を考える。

(2) 準備物

須崎市の地図（大判・グループ用の地図 6 枚）・ワークシート

(3) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価
1. 指定避難場所を確認する。	・防災キャンプのことを思い出させる。 ・西・北・東の指定避難場所を確認する。	
どんな場所においても、安全にひなんでできる場所をさがそう。		
2. どんな場所においても安全に避難できるように、地域の地図に色分けしながら考える。 (グループ活動) ※指定避難場所の範囲を色分けする。 ①自分の家の近くを中心を考える。 ②他の地区を考える。	・グループに須崎市の地図を配付し、具体的に考えられるようにする。 ・『○の場所にいたら、□の避難場所に逃げる.』などを考えながら、指定避難場所の範囲を色分けしていく。 ・道路が広く、建物が倒れていても通れる道など、逃げやすい道を理由として考えるように声掛けをしていく。	・自分たちの住む地域の特徴を捉え、安全な指定避難場所を考えている。【関心・意欲・態度】(発言、行動観察)
3. グループで考えた地図を見合いながら、色分けの理由を報告し、確認しあっていく。	・避難場所を選んだ理由を聞きながら、安全な場所なのかを確認し合う。	
4. 次時への課題をもたせる。 ・一人ひとりが『避難キーワード』を考える。 (ワークシート)	・「自分の命は自分で守る」ための心構えと、自分のためになる学習を今後も心がけていけるように、キーワードを一人ひとりに考えさせる。 (予想されるキーワード) ○ゆれがおさまってから行動 ○落ち着いて行動 ○高台へGO ○頭をまもる	

第5学年 道徳（防災学習）学習指導案

平成24年12月5日（水）第5校時

児童数 5年1組 20名（男子12名、女子8名）

指導者 5年1組担任 山本 由香

学習室4担任 藤田 真千

1. 主題名 「尊い命」 3－（1）生命尊重

2. ねらい 生命がかけがえのないことを知り、自他の生命を尊重しようとする心情を育てる。（推進の視点B）

3. 資料名 「稲むらの火」（出典「稲むらの火」 童心社紙芝居）

4. 主題設定の理由

昨年の東日本大震災以来、地震に関する報道や啓発活動が以前にも増して盛んに行われるようになり、南海大地震に対する関心は日に日に高まってきている。水深が浅く、奥行きが狭まった須崎湾沿岸の地域という地理的な要因もあり、本校は保護者や地域の防災意識もたいへん高い。「地震が起きても一人の犠牲者も出さないでほしい」という学校への期待は大きく、児童の命を守ることは学校にとっても大命題である。本主題では、地震に被災した後、大切な稲むらを犠牲にしても村人を助けようとした先人の行いを通して、命を最優先する判断や行動のすばらしさを感じ取らせ、自分だけでなく他人の生命も大切にしようとする心情を育てることをねらうものである。

本学級の児童は、1学期には自分の名前の由来や妊婦さんといっしょに命の尊さについて考えてきた。しかし、自分や他人の命を大切に出来ていない言動がまだ見られる。自分自身を大切にし、相手を尊重し、命あるものを大切にする心情を育てていかなければならない。また、今までに南海地震啓発用デジタル教材「南海地震に備えちょき」を使つての学習や防災キャンプ、授業中や休み時間などに繰り返し行ってきた避難訓練などを通して地震についての知識や避難の仕方も身に付けてきている。しかし、実際に地震や津波に襲われたとき、日頃の学習を生かして冷静に行動できるとは限らない。災害時や危急のとき、周りと協力して互いに助け合いながら多くの命を救った主人公の行動をもとに、生命尊重の意識を深化させたい。

本資料は、1854年の安政南海地震の時に、紀州有田郡広村での事実をもとに作られた物語である。地震の後、目前に迫る津波を確認した濱口儀兵衛は、とっさの判断で大切な稲むらを燃やすことによって津波の襲来を村人に知らせようとする。その火を見て火事だと思った人々が、高台にある儀兵衛の田んぼに駆けつけたことで津波に巻き込まれず、多くの村人たちの尊い命が救われたという内容である。農民にとって貴重な稲むらに火をつけることは相当勇気がいることであるが、それと同時に多くの人々に危険をいち早く知らせる方法としてもたいへん効果的である。本来なら決断するのにかなりの勇気を必要とする行為に対して儀兵衛はいささかの逡巡もなく行動に移している。ただ大切な人命を救うことだけを考えて行動する儀兵衛の姿勢に焦点を当てることでねらいに迫りたい。

5. 指導計画（全2時間 本時1／2）

日常生活 ・健康しらべ ・日記指導など	道徳（1時間） 「稲むらの火」（生命尊重） ・何よりも人命を大切にした主人公の心情を考えることを通して生命の尊さについて考えを深める。	特別活動（学校行事） ・防災学習 ・避難訓練など
	特別活動（1時間）【学級活動(2)】 あなたならどうしますか？ ・災害時に遭遇する様々な困難な事態について、自分なりに最善の策を見出していく方法を考える。	

6. 本時の学習の流れ（○主な発問 ◎中心発問 ・予想される児童の反応）

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	教師の支援（・）評価（※）
導入	1 資料の時代背景や稲むらについて知る。	○時代背景や稲むらの大切さを説明する。	・紙芝居の1枚目を見せて、儀兵衛の立場や稲むらの重要性を理解させる。
展開	2 資料「稲むらの火」を読んで話し合う。 （1）地震が来た時の儀兵衛の心情を考える。 （2）津波を察知した時の儀兵衛の心情を考える。 （3）稲むらに火をつけた時の儀兵衛の心情を話し合う。	○地震が来たとき儀兵衛はどんな気持ちになっただろう。 ・今までにない揺れだ。 ・これはたいへんなことになるぞ。 ・村人は大丈夫だろうか。 ○津波が来ることを察知した儀兵衛は、どんな気持ちで村を見ていただろう。 ・今は祭りどころではないぞ。 ・早く逃げろ。 ・何とか早く知らせなければ。 ・どうやって知らせたらいいのだろう。 ◎稲むらに火をつける時の儀兵衛はどんなことを考えただろう。 ・火をつけたらせっかくの稲むらが無駄になってしまう。 ・もったいないが仕方がない。 ・稲むらよりも人の命が大事だ。 ・みんな気づいてくれ。	・これまでにない特別な揺れに遭遇した儀兵衛の不安や心配に共感させる。 ・第二の恐怖である津波の襲来を察知した儀兵衛の不安や焦りに共感させる。 ・何のためらいもなく稲むらに火をつける儀兵衛の決断力や人命を最優先する姿勢に気づかせる。 ・ペアで対話させていく。 ※何よりも人命を大切にしようとした儀兵衛の思いを捉えているか。
終末	3 教師の説話を聞く。		・命が助かることを最優先した過去の地震における事例を紹介する。 ・次時の予告をする。

第5学年 道徳（防災学習）学習指導案

平成24年12月5日（水）第5校時

児童数 5年2組 21名（男子13名 女子8名）

授業者 5年2組担任 曾根 豊弘

学習室3担任 武田 和志

1. 主題名 「尊い命」 3－（1）生命尊重

2. ねらい 生命がかけがえのないことを知り、自他の生命を尊重しようとする心情を育てる。（推進の視点 B）

3. 資料名 「稲むらの火」（出典「稲むらの火」 童心社紙芝居）

4. 主題設定の理由

昨年の東日本大震災以来、地震に関する報道や啓発活動が以前にも増して盛んに行われるようになり、南海大地震に対する関心は日に日に高まってきている。水深が浅く、奥行きが狭まった須崎湾沿岸の地域という地理的な要因もあり、本校は保護者や地域の防災意識もたいへん高い。「地震が起きても一人の犠牲者も出さないでほしい」という学校への期待は大きく、児童の命を守ることは学校にとっても大命題である。本主題では、地震に被災した後、大切な稲むらを犠牲にしても村人を助けようとした先人の行いを通して、命を最優先する判断や行動のすばらしさを感じ取らせ、自分だけでなく他人の生命も大切にしようとする心情を育てることをねらうものである。

本学級の児童は、学級や家庭で生き物を飼育する経験や特別活動での命の学習などを通して、命の尊さを感じ取ってきている。しかし、場面によっては自分や他人の命を軽んずる言動を繰り返すなど、命の大切さを観念的にしかとらえていない児童も少なからずいる。また、今までに南海地震啓発用デジタル教材「南海地震に備えちょき」を使つての学習や防災キャンプ、授業中や休み時間などに繰り返し行ってきた避難訓練などを通して地震についての知識や避難の仕方も身に付けてきている。しかし、実際に地震や津波に襲われたとき、日頃の学習を生かして冷静に行動できるとは限らない。災害時や危急のとき、周りと協力して互いに助け合いながら多くの命を救った主人公の行動をもとに、生命尊重の意識を深化させたい。

本資料は、1854年の安政南海地震の時に、紀州有田郡広村での事実をもとに作られた物語である。地震の後、目前に迫る津波を確認した濱口儀兵衛は、とっさの判断で大切な稲むらを燃やすことによって津波の襲来を村人に知らせようとする。その火を見て火事だと思った人々が、高台にある儀兵衛の田んぼに駆けつけたことで津波に巻き込まれず、多くの村人たちの尊い命が救われたという内容である。農民にとって貴重な稲むらに火をつけることは相当勇気がいることであるが、それと同時に多くの人々に危険をいち早く知らせる方法としてもたいへん効果的である。本来なら決断するのにかなりの勇気を必要とする行為に対して儀兵衛はいささかの逡巡もなく行動に移している。ただ大切な人命を救うことだけを考えて行動する儀兵衛の姿勢に焦点を当てることでねらいに迫りたい。

5. 指導計画（全2時間 本時1／2）

日常生活 ・健康しらべ ・日記指導など	道徳（1時間） 「稲むらの火」（生命尊重） ・何よりも人命を大切にした主人公の心情を考えることを通して生命の尊さについて考えを深める。	特別活動（学校行事） ・防災学習 ・避難訓練など
	特別活動（1時間）【学級活動(2)】 あなたならどうしますか？ ・災害時に遭遇する様々な困難な事態について、自分なりに最善の策を見出していく方法を考える。	

6. 本時の学習の流れ（○主な発問 ◎中心発問 ・予想される児童の反応）

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	教師の支援（・）評価（※）
導入	1 資料の時代背景や稲むらについて知る。	○時代背景や稲むらの大切さを説明する。	・紙芝居の1枚目を見せて、儀兵衛の立場や稲むらの重要性を理解させる。
展開	2 資料「稲むらの火」を読んで話し合う。 (1) 地震が来た時の儀兵衛の心情を考える。	○地震が来たとき儀兵衛はどんな気持ちになっただろう。 ・今までにない揺れだ。 ・これはたいへんなことになるぞ。 ・村人は大丈夫だろうか。	・これまでになかった特別な揺れに遭遇した儀兵衛の不安や心配に共感させる。
	(2) 津波を察知した時の儀兵衛の心情を考える。	○津波が来ることを察知した儀兵衛は、どんな気持ちで村を見ていただろう。 ・今は祭りどころではないぞ。 ・早く逃げろ。 ・何とか早く知らせなければ。 ・どうやって知らせたらいいのだろう。	・第二の恐怖である津波の襲来を察知した儀兵衛の不安や焦りに共感させる。
	(3) 稲むらに火をつけた時の儀兵衛の心情を話し合う。	◎稲むらに火をつける時の儀兵衛はどんなことを考えただろう。 ・火をつけたらせっかくの稲むらが無駄になってしまう。 ・もったいないが仕方がない。 ・稲むらよりも人の命が大事だ。 ・みんな気づいてくれ。	・何のためらいもなく稲むらに火をつける儀兵衛の決断力や人命を最優先する姿勢に気づかせる。 ・ペアで対話させていく。 ※何よりも人命を大切にした儀兵衛の思いを捉えているか。
終末	3 教師の説話を聞く。		・命が助かることを最優先した過去の地震における事例を紹介する。 ・次時の予告をする。

第6学年 総合的な学習の時間(防災学習)学習指導案

平成24年12月5日(水) 第5校時

児童数 6学年 男子30名 女子28名 計58名

指導者 6年1組担任 西村 大典

6年2組担任 野本 真紀

1. 単元名 ぼくらは防災メッセンジャー

2. 単元について

須崎市は海岸線に面しており、海の恩恵を受け発展してきた町である。歴史的に辿って見ると、豊かな水産資源に恵まれ、水深の深い湾を利用した大型貨物船による貿易港として海とともに歩んできた経緯がある。

しかしその反面、海に苦しめられた歴史も存在する。100年～150年周期でくる南海地震やそれに伴う大津波による被害は甚大なものであり、その度に死者や家屋倒壊、湾内の地盤沈下や海水面が広がること等が繰り返された。須崎市の歴史は津波との闘いの歴史と言えるのである。次に来る南海地震は、昭和の南海地震を大きく上回る規模であり、予想される県の被害想定では、須崎市は震度6強、津波の高さは場所により25mを超え、大規模な被害をもたらすと言われている。しかもその南海地震は近い将来必ず起こると言われ、いつ起きても不思議ではなく、明日来るかもしれないという時期にかかっている。地震に対する備えや、津波に対する備えをしっかりと把握し、「その時」自分はどの行動できるかを問われているのである。

そこで、これらの課題解決に向けた素地作りをしていけるものと考え、防災学習プランとして上記単元を設定することとした。地震のメカニズムを学習することによって、地震のすばやく対応できる力を育み、また避難ルートと避難方法の学習や避難後の生活やライフラインの確保等の学習を通して、自分で自分の命を守るためにどう対処できるかを考え行動できる子どもに育てていきたい。

本校の6年生は、津波に対して敏感である。土地柄が津波被害を受けてきたこともあり、地区の古老が南海地震やチリ津波などの津波被害を語り継いできた歴史を伝え聞いている。また、2011年の東日本大震災による未曾有の被害をメディアを通して目の辺りにし、次々と伝わる映像やニュースで津波の破壊力の恐ろしさを実感した。さらに、この東日本大震災による津波浸水被害や漁業被害を西日本で唯一出したのが須崎湾であることも関係している。修学旅行での津波高潮ステーションでの震災学習でもまじめに取り組み避難訓練ではすばやく行動できる。

しかしながら、「自分の命を自分で守る」「その時どう対処できるか」という自分の命にかかわる主体的な部分では、自分から進んで行動するというより、学校や地域の主導の下に素直に従っている姿を抜けていない。

本時の学習においては、児童が自分たちで地震・津波への備えや地域の地震の歴史等を調べて発見したことをグループ別にまとめ、ポスターセッションを行う。同学年の児童に繰り返し伝えることにより、防災に対するメッセンジャーとしての自覚を高め、また他の児童の発表や取り組みを知る中で、今以上の防災に対する意識づけを図り、これからの津波と向き合う生き方の基礎作りとしたい。

3. 目標

- ・自分一人でも適切に避難し対応できる防災の総合的な力を培う。(推進の視点 A)
- ・避難生活において、自分が人のために何ができるかを考え行動しようとすることができる。
(推進の視点 B)
- ・地震発生メカニズムや地域の災害の歴史と対策について理解する。(推進の視点 C)

4. 評価規準

関心・意欲・態度	学ぶ力・考える力	表現力
・自分から進んで防災意識を持とうとしている。	・自分や人の命を守るために自分がどう対処するか、何ができるかを考え行動しようとしている。 ・地震や津波、防災についての仕組みや避難方法の基礎的な知識を理解している。	・学んだことを、身近な人たちに分かりやすく伝えている。

5. 指導計画（全 19 時間 本時 12/19 ）

	時間	学習活動	教科領域	学習内容	評価（方法）
第一次	2 時間	地震のメカニズムを知る。	理科	火山活動や地震による断層の仕組みや、地震の規模や震度について知る。	震度によってゆれの大きさの違い、マグニチュードの破壊力について知る。 【学ぶ力・考える力】 (ワークシート)
	2 時間	気象庁 C アラートの仕組みを知る。	社会総合	緊急地震速報の仕組みと働きについて理解する。	数秒前に知ることと早期避難のよさについて知る。 【学ぶ力・考える力】 (発表・感想文)
	1 時間	地震津波の歴史を知る。	社会	須崎市の津波に襲われた歴史を知り、今後も繰り返し襲われることについて理解する。	津波との戦いの歴史が繰り返されたことを知る。 【関心・意欲】 (発表・ワークシート)
	1 時間	津波に対する備えを学習する。	総合	いろいろな場面を想定し、何を準備しておくか知る。	防災グッズの上手な活用方法を見つける。 【学ぶ力・考える力】 (発表、ワークシート)
	2 時間	ライフライン・共同生活について知る。	保健	一人や共同生活での支援活動を知るとともに、ライフラインや緊急電話の大切さについて学ぶ。	人は支えあい協力しながら困難の条件の中でも生き抜いていけることを知る。

					【関心・意欲】 (発表、感想)
第二次	3時間	テーマ学習、第1次まとめをする。	総合	自分のテーマを友達と協力して調べまとめる。	課題意識を持ち進んで調べ、まとめようとしている。【関心・意欲】 (発表原稿、ポスター、行動観察)
	1時間 本時	ポスターセッションを行う。	総合	ポスターセッションで発表し友達に知らせる。	防災メッセージャーとして、自分の調べたテーマを分かりやすく伝えている。 【表現力】 (発表、ポスター・発表原稿、質疑、感想用紙)
第三次	4時間	避難マップ・避難経路案内板作りをする。	総合	・自分が避難する避難マップを作る。 ・地域住民が避難できるような案内板を、町中に張り出す。	自分の命を守るために行動で、避難のパターン化をシュミレーションしている。【表現力】 (自分のマップ、案内板)
第四次	2時間	まとめをする。	総合	自分の命を守るために、常に防災意識を持ち、どう考え行動するかをまとめる。	防災を自分のことと捕らえ、どう行動すればいいのか考えている。 【学ぶ力・考える力】 (感想文・発表)
	1時間	全校に向けて発表する。	総合	人権発表会において、学んだことを発表する。	メッセージャーとして、工夫した分かりやすい発表をしている。【表現力】 (発表、感想文)

6. 本時の指導

(1) 目標

- ・防災メッセージャーとして、自分の調べたテーマについて使命感を持って友だちに分かりやすく伝えることができる。

(2) 準備物 (ポスター・小道具・発表原稿用紙・感想用紙等)

(3) 展 開

学習活動	指導上の留意点	評価（方法）
防災メッセージとしての使命を達成しよう 1. ポスターセッションの進め方の確認をする。 2. 1組が発表をし、2組は質問や発表の仕方の評価をする。 3. 2組が発表をし、1組は質問や発表の仕方の評価をする。 4. 各自が感想をまとめ、交流し合う。 5. 地域のために自分たちができることを考える。		
○発表の手順と評価の観点を押さえさせる。 ＜評価の観点＞ ・分かりやすく説明できたか ・資料や聞き取ったことを分かりやすくまとめていたか ・新しい発見があったか ○1組が3種類のテーマについて説明させる。2組は5分ごとに移動し説明を聞き、質問等ができるようにさせる。 ＜テーマ＞ ・地震のメカニズム ・気象庁Cアラートの仕組み ・地震津波の歴史 ・津波に対する備え ・ライフライン ・共同生活と復興 ○聞き手には、自分も次なるメッセージになれるよう使命感を持って聞かせる。 ・よかった点、気にかかった所を感想用紙にまとめさせる。 ・全体で自分が感じたことを出し合い、他の児童の発表したテーマの大切さに気づかせる。 ○第三次の学習活動である地域住民が避難するための案内版作りにつなげていく。		防災メッセージとして、自分の調べたテーマを分かりやすく伝えている。【表現力】 (発表・ポスター・発表原稿、質疑、感想用紙) 他のグループの発表を自分にもかかわる問題として受け取り、良い部分に気づいたり新しい発見をしたりしている。【学ぶ力・考える力】 (ワークシート、発表)

实践報告配布資料

緊急地震速報作動時「命の10秒」の行動

緊急地震速報システムでも秒単位の誤差が想定されます。カウント3秒までに！

★1 教室の場合

すぐに机の下に入り、机の脚を対角に両手で握り体を丸くして落下物、ゆれに備える。

★2 ローカ・階段の場合

教室の近くなら教室へ帰り、★1の体制をとる。教室へ帰れない場合は、倒壊物や窓ガラスの破損の恐れがあるため、壁から離れて座って、頭を覆い衝撃防御姿勢をとる。

★3 体育館の場合

中庭に移動し、建物から離れて、頭を覆い衝撃防御姿勢をとる。

体育館から外への避難が困難な場合は体育館中央に移動し、頭を覆い衝撃防御姿勢をとる。

★4 トイレの場合

教室へ帰れる場合は教室に帰り★1の体制をとる。便器に座っている場合は、地震でドアが開かなくなる恐れがあるので、すぐにドアを開け、その場で頭を覆い衝撃防御姿勢をとる。

★5 調理室・理科室・図書室等の場合

壁から離れ、イスを両手で持ち頭を覆い、衝撃防御姿勢をとる。

★6 パソコン室の場合

完全に机の下に体全体を入れ★1の体制をとる。地震により机の上のパソコンが確実に落下する。

★7 運動場の場合

運動場中央に移動し、集団で衝撃防御姿勢をとる。

★8 中庭の場合

運動場へ急いで行き衝撃体制をとる。移動が間に合わない場合には中庭中央で校舎から離れ衝撃防御体制をとる。

★9 プールの場合

急いでプールの縁を持ち、体を支える。震度の強い地震の場合かなりの波うちが発生する。

★10 全共通

建物、壁、窓ガラス、倒壊物から離れ、衝撃防御体制をとる。避難指示があるまではその場で身を守る。

※校舎内にいるときは必ず上履きを履く。素足では破損ガラスの上を歩けない。

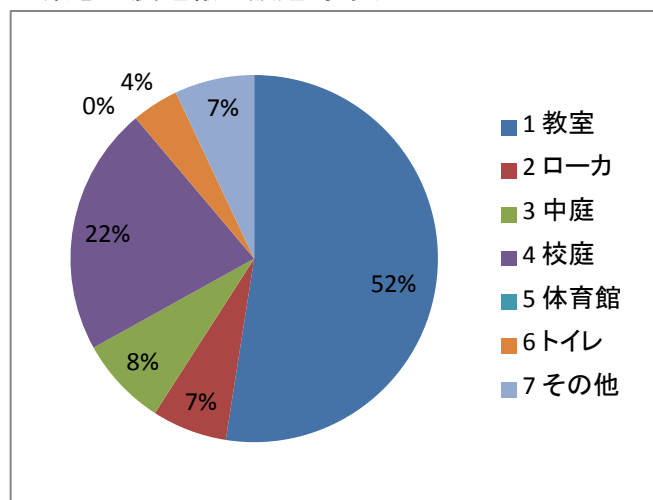
★★ パニックにならない

緊急受信速報システムがあっても、実際に地震が発生すると学校の全員がパニックになり正常な判断ができなくなります。須崎小学校の防災教育の目標は児童の一人ひとりがその場で最善の行動をとり、命を守ることができるようになることです。東日本大震災から学び真剣に取り組みましょう。

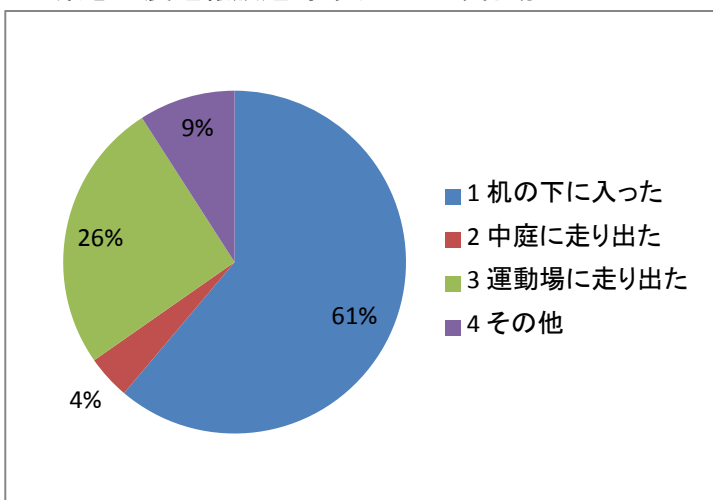
緊急地震速報全館リアルタイム放送システム活用避難訓練アンケート集計（2012/09/12 AM9:35実施）

対象：全児童（無回答含む）

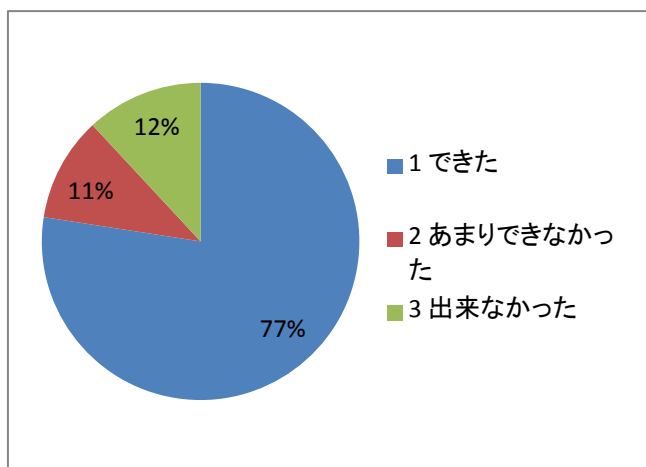
Q1 緊急地震速報の放送時あなたはどこにいましたか



Q2 緊急地震速報放送時あなたはどう行動しましたか



Q3 地震発生中に十分に自分の安全が確保できましたか

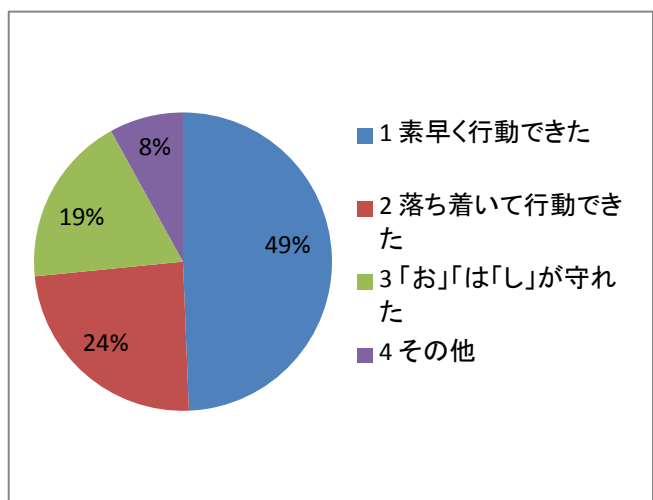


感想等

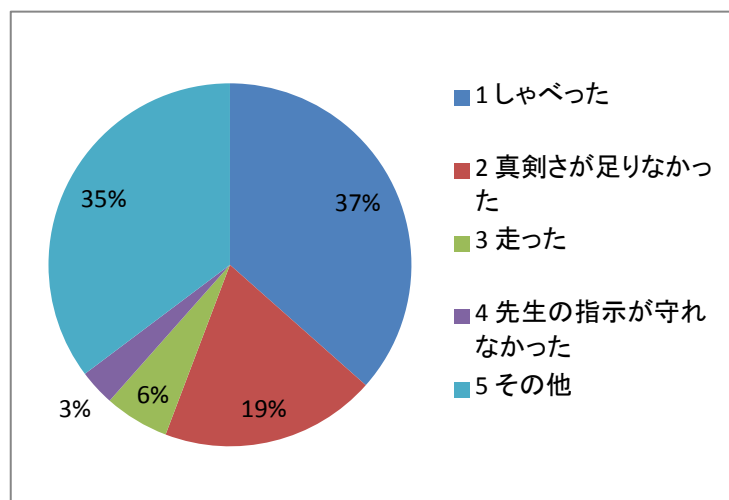
- ・事前に地震の発生を知らせてくれるので素早く行動できた。
- ・17秒後とか具体的な時間を知らせてくれるので余裕が持てた。
- ・今後もこのような避難訓練を行い命を守りたい。
- ・突然地震が起こったらかなり混乱すると思う。

Q4 今回の避難訓練であなたの「よくできた点」と「よく出来なかった点」は何ですか

よくできた点



よく出来なかった点



実践的防災教育推進講演会
守った命そして復興へ
〜東日本大震災から学ぶ〜

平成24年7月3日（火）

須崎市民文化会館大ホールにおいて、岩手県陸前高田市立気仙中学校前副校長鈴木秀行先生（現在は他校校長）を講師に招いて防災教育の講演会を行いました。

この講演会は本年須崎小学校が国、県の防災教育の指定事業を受けその一環として開催したものです。また、須崎中学校区の連携事業として、須崎、新莊、安和小学校の5、6年生、須崎中学校の全校生徒、須崎高校の1年生も総見として参加しました。

東日本大震災については、マスコミ等で繰り返し報道され、震災時に津波が町を襲う様子やその後の救援、復興活動などは私たちの脳裏に刻みつけられました。しかし、その時学校現場では何が起こっていたのでしょうか。

今回の講演講師の鈴木校長先生は震災発生時に当時の赴任校で生徒の避難の陣頭指揮をとり、その後の避難生活や、学校再開・復興活動までを身をもって体験されました。

鈴木先生は実際の写真を使いつながり「私たちの知らなかった学校現場の現実」を生々しく語ってくれました。



平成23年3月11日、6校時、翌週15日に卒業式を控え全校生徒は体育館に集まり合唱練習をしていました。午後2時46分マグニチュード9の大地震が発生しました。

即座に全校生徒を日々避難訓練を重ねてきた所定の避難場所に第1避難場所へ誘導。

3時26分、大きな引き潮の後、津波の第1波が学校の近くの防波堤を超え、現在の避難場所では危険と判断し、想定外の山へ避難を開始。

その後、山の第2避難所へ到着しました。その頃には津波が陸前高田市の町を飲み込みはじめ、その様子を見てい

た生徒からは、目の前に広がる信じがたい光景に、家族などを心配して悲鳴や泣き声が上がリパニック状態が発生していました。



（津波に飲み込まれる陸前高田市）

この状態を回避するために全生徒とともに、さらに山に登り町の様子が見えない林道に移動し、担任の先生方が生徒に寄り添い、励ましつづけました。津波来襲から約10分で陸前高田市の町が完全に海に沈没しました、その時の様子を鈴木校長先生は「目の前を家々が流されていきます。流れていく家の屋根には2人の男性がいました。1人は茫然としたまま町を見つめ、もう1人はすつくと立ってこちら

を見つめていました。目を疑う光景でした。今でも目に焼き付いています。」と語られました。



（水没していく気仙中学校）

その後、公民館に全校生徒を移動させ近隣の方々からいただいた毛布を何人もで使い、余震の恐怖と寒さに耐えながら一晩を過ごしました。「その夜は、とてもきれいな星空でした。流れ星もたくさん見えました。一生涯忘れることのできない夜となりました。」と3月11日の夜のことを話されました。

警報が解除された後、中学校を確認しに行くと、堤防は完全に破壊され、校庭は海となり、校舎は屋上まで波が達

し、内部は全壊していました。「体育館は姿をなくし、周辺には赤い布のついた棒がたくさん立っていました。一緒にいた先生が、それは発見されたご遺体があることを示していることを教えてくれました。周りを見回すと、辺り一面に赤い布がついた棒が立っていました。本校の学区の約4分の3の家々があの日を境に消えてなくなりました。」

陸前高田市では死者2009人、行方不明者41人、負傷者不明、家屋全壊3159棟、人口の10%が失われました。

その後、近隣の小学校で家屋を失った人たちの避難生活が始まりました。地区ごとに班を作り教室が割り当てられました。この時点でまだ引き取られていない生徒30名と教員は学校班となりました。

朝昼晩の食事は3食とも小さなおにぎりが1つでした。水さえも出ません。しかし、生徒たちは誰1人不平不満を言いませんでした。

避難所では中学生が大きな戦力になりました。食料の搬入、食料の仕分け、不定期でやってくる支援物資の搬入、掃除、トイレの水汲み、まき拾い、薬剤師の助手となって

カルテ等の作成など、とにかく全員が働きました。

「今、実際に起きていることを理解し、その日を精一杯生きていたのだと思います。大きな悲しみを一時でも忘れようとしていたのかもしれない。」



学校班が最後の生徒を保護者にお返しできたのは3月23日でした。12日間を要しました。（何名もの保護者が亡くなり、両親を亡くした生徒もいました。）

校舎を失った気仙中学校では廃校になった小学校を与えられ学校を再開しました。気仙町から15kmほど離れた山あいの学校です。この時、体育館はまだ遺体安置所にな

っていました。

この学校の被害は少なく電気も水道も使用できました。

地震がうそのような環境です。

5月の気仙中学校生徒大会では「・・・気仙中学校の形あるものは全て失われまし

た。・・・地震や津波は私たちの心に深い傷を残しましたが、全国の皆さんからのやさしい気持ちを知ること、全校がより強く一つにまとまって目標に進むことができるようになりました。この気仙中復興宣言をまとめることで、支援、声援を下さった皆さんと自分たち自身に気仙中復興に向けて取り組むことを誓います。」という「気仙中学校生徒会復興宣言（中略）」が採択されました。



感謝と自分たちの決意が込められています。形のあるものは失っても、形のない文化を継承しよう。感謝の気持ちを立て看板の作成。お礼状を送ることなどが盛り込まれています。

生徒たちは4月は避難所の疲れや先の見えない不安、修学旅行や部活動もできない環境で暗い表情で元気もありませんでした。お風呂にもあまり入れない状況で体を動かしたり汗をかいたりすることを嫌がっていました。実際に教室には独特の匂いが漂っていました。

その後、県内外、全世界から温かい支援をたくさんいただき、ホールは学用品等の支援物でいっぱいになりました。名古屋市中からも招待を受け飛行機を使つての職業体験学習に1、2年生は参加することができました。

北海道から転校してきた父親を亡くした生徒のつながりで音楽グループZONEのミニライブも行われました。数多くのお手紙やメッセージも寄せられ校舎内いっばいに展示しました。支援を頂いた方々には全校生徒で手分けして直筆のお礼状を書きました。



（9月1日被災後初めての温かい給食に喜ぶ生徒たち。）

「失ったものはたくさんありましたが、しかし、得たものもいっぱいありました。当たり前のことが奇跡であること人とのつながり、人のやさしさ。生徒たちは、震災を通して、故郷への思いが強くなつたように思います。保育士になつて子どもの笑顔を増やしたい。医師になつて地元に戻つてくる。市の職員になつて復興の役に立ちたい。と夢や希望を語ってくれました。」

この後、震災を通してのメッセージを頂きました。

- ① 地震後、津波は必ず来る。すぐにより高い所へ避難。
- ② 時間との戦い。

- ③ 命が最優先。
- ④ 現実とは想定を超える。
- ⑤ 計画は基本、臨機応変に。
- ⑥ 危険予知能力危機回避能力をイメーシすること。

などです。

当時の気仙中学校3年生の書いた日本語大賞最優秀作文「感謝が結んだ絆」が朗読され会場には涙する人の姿も見えました。

最後に「須崎市の児童生徒の皆さん！命を大切に！そして生きぬいて自分の夢を実現させてください。」という言葉を頂き講演は終了しました。

将来予想されている南海地震に備え各地で東日本大震災を教訓として防災への備えが進んでいます。須崎小学校ではまず「震災時の実際の学校の現状を知るためにこの講演会を企画しました。」

講演会全体を収録したビデオをご家庭や各職場での防災教育研修のために9月を予定として現在配布準備を進めています。詳しくは後日須崎小学校のホームページ等でご紹介いたします。

須崎市立須崎小学校
防災教育担当

防災学習についてのアンケート(須崎小低学年)

月 日 ()

年 組 番 名前

1. つぎのしつもん^{こと}に答えてください。

①あなたは、南海地震^{なんかいじしん}について、話^{はなし}を聞いたり見たりしたことがありますか。(1 ある ・ 2 ない)

*「ある」に○をした人^{ひと}は、下^{した}の当てはまるものをすべて○で囲^{かこ}んでください。

1 学校の授業 ^{がっこうのじゅぎょう} で	2 学校の避難訓練 ^{がっこうのひなんくんれん} で	3 家庭 ^{かてい} で	4 まわりの人 ^{ひと} から
5 テレビやラジオのニュースで	6 インターネット ^た で	7 その他 ^た ()	

②あなたは、地震^{じしん}が起きたとき、自分^おの家のまわりでどんなことが起こるか知^しっていますか。

(1 知^しっている 2 知^しらない 3 わから^しない)

*「知^しっている」に○をした人^{ひと}は下^{した}の当てはまるものをすべて○で囲^{かこ}んでください。

1 建物が壊 ^た れる	2 火災 ^{かさい}	3 津波 ^{つなみ}	4 山崩 ^{やまくず} れ	5 液状化 ^{えきじょうか} (地面 ^{じめん} が水 ^{みず} のようになる)
6 地盤沈下 ^{じばんちんか} (地面 ^{じめん} が下 ^さ がる)	7 その他 ^た ()			

③あなたは、地震^{じしん}が起きた時^{とき}に、揺れから自分^おの命^{いのち}を守^{まも}る方法^{ほうほう}を知^しっていますか。

◆家^{いえ}や建物^{たてもの}の中^{なか}にいるとき (1 知^しっている 2 知^しらない 3 わから^しない)

◆外^{そと}にいるとき (1 知^しっている 2 知^しらない 3 わから^しない)

④あなたは、地震^{じしん}が起きた後^{あと}に、避難^{ひなん}する安全^{あんぜん}な場所^{ばしょ}を知^しっていますか。

◆学校^{がっこう}にいるとき (1 知^しっている 2 知^しらない 3 わから^しない)

◆登下校^{とうげこう}の時^{とき} (1 知^しっている 2 知^しらない 3 わから^しない)

⑤あなたが、一人^{ひとり}で登下校^{とうげこう}しているとき地震^{じしん}が起きたら、安全^{あんぜん}な場所^{ばしょ}に避難^{ひなん}することができますか。

(1 できる 2 できない 3 わから^しない)

⑥あなたは、地震^{じしん}などで避難^{ひなん}した後^{あと}に、家族^{かぞく}と集^{しゅう}合^{ごう}する場所^{ばしょ}を決^きめていますか。

(1 決^きめている 2 決^きめてい^きない)

⑦あなたは、地震^{じしん}などで避難^{ひなん}した後^{あと}に、家族^{かぞく}との連絡^{れんらく}のとり方^{かた}を決^きめていますか。

(1 決^きめている 2 決^きめてい^きない)

⑧あなた(あなたの家^{いえ})は、地震^{じしん}に備^{そな}えて何^{なに}か準備^{じゅんび}をしていますか。

(1 して^しいる 2 して^しいて^しない 3 わから^しない)

*「して^しいる」に○をした人^{ひと}は、下^{した}の当てはまるものをすべて○で囲^{かこ}んでください。

1 持ち出し袋 ^{もちだしふくろ} を用意 ^{ようい} している	2 家具 ^{かぐ} をとめて ^か いる	3 ガラスにフィルムをは ^か っている
4 家 ^{いえ} が地震 ^{じしん} にたえられ ^し るか調 ^{しら} べた	5 その他 ^た ()	

⑨あなたは、南海地震^{なんかいじしん}について、もっと学^{がく}習^{しゅう}したいと思^{おも}いますか。(1 思^{おも}う 2 思^{おも}わ^{おも}ない)

2. 防災^{ぼうさい}について学^{がく}習^{しゅう}したいこと^しや知^かりたいこと^しを書^かいてください。
